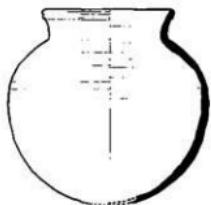


熊本大学構内遺跡発掘調査報告Ⅱ

— 本荘南地区発生医学研究センター施設整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書 —



2007

熊本大学埋蔵文化財調査室

熊本大学構内遺跡発掘調査報告Ⅱ

— 本荘南地区発生医学研究センター施設整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書 —

2007

熊本大学埋蔵文化財調査室

誤	正
P31 圖14 58	P31 圖14 59
P31 圖14 59	P31 圖14 58



1. 0402調査地点の鳥瞰写真（南より）



2. 0402調査地点の遺構検出状況（上空より）

序 文

2003年は本学における再開発がスタートして9年目となる。この間、数多くの地区において校舎建設に伴い大規模な発掘調査や数多くの立会調査を実施してきた。校舎の改築とライフラインの再整備は大学の直面する喫緊の課題であるが、大学の立地する敷地のほとんどには埋蔵文化財が存在し、開発に先立つ調査が不可欠である。

今回PFI事業による発生医学研究センターの校舎建設のために実施した発掘調査では、縄文時代後期の竪穴住居址や古墳時代の竪穴、そして古代の竪穴住居址や溝などが検出された。この一帯は白川の南岸にあたり、白川から分岐した用水路が比較的多く存在する土地柄である。このような土地景観は地表下にも確認することができ、その歴史が古いことを物語っている。ただし、水田化する前は集落が営まれていたことも明らかになった。

今回の発掘調査によって検出された遺構群は決して完全な形で残されたものではなく、断片的なものがほとんどであったが、これらを周辺での調査成果と丁寧に組み合せていくことで、一帯の歴史的変遷を把握することが可能である。

本書は、本事業に伴って3年間にわたって実施した調査の成果を広く公開し、一般市民の方に埋蔵文化財に対する理解を深めてもらうとともに、学術研究資料としての利用を図るものである。

本学の再開発は継続中であるが、今後も文化財の保護と普及啓蒙に努力していきたい。この間、調査にご協力を惜しまれなかった熊本市教育委員会、熊本県教育庁および周辺市町村の文化財ご担当各位に感謝申し上げます。

平成19年3月31日

熊本大学埋蔵文化財調査委員会

委員長 伊藤 重剛

例　　言

1. 本報告書は、平成15～17年に熊本大学本荘南地区で実施されたPFI事業：本荘南地区発生医学研究センター施設整備事業によって熊本大学医学部敷地内において行われた工事に伴い、熊本大学埋蔵文化財調査室が2003～2005年度に実施した発掘調査に関する報告書である。
2. 発掘調査の成果は年度ごとに整理し、報告する。このPFI事業に関連する熊本大学埋蔵文化財調査室の調査番号は以下のとおりである。

2003年度：3014、2004年度：0402、2005年度：0503

3. 以上の調査を実施した2003～2005年度の埋蔵文化財調査室の組織と調査体制は以下のとおりである。

2003年度 室　　長：甲元眞之（文学部教授）

　調　　査　員：小畠弘己（文学部助教授）・大坪志子（文学部助手）

　事務補佐員：坂元紀乃

2004年度 室　　長：甲元眞之（文学部教授）

　調　　査　員：小畠弘己（文学部助教授）・大坪志子（文学部助手）・榎　佳克（技術補佐員）（1月から）

　事務補佐員：前田知聖

2005年度 室　　長：甲元眞之（文学部教授）（7月まで）・木下尚子（文学部教授）（10月以降）

　調　　査　員：小畠弘己（文学部助教授）・大坪志子（文学部助手）・榎　佳克（技術補佐員）

　事務補佐員：前田知聖

4. 本文は、小畠弘己が執筆した。

5. 本書に使用した遺構実測図に関しては、小畠以外に埋蔵文化財サポートによるものである。

6. 本書に使用した遺物実測図は、小畠の他、熊本大学考古学研究室学生、長谷智子、山寄早苗が作図した。

7. 本書に使用した図版の製図は小畠の他、増井弘子、鬼塚美枝が行った。

8. 遺構実測及び製図には手描による記録とともに遺跡調査汎用システム（カタタ Ver. 3-アーケオテクノ社）、アイシン精機株式会社の遺跡実測支援システム「遺構くん」及び製図システム「トレース3Dくん」を使用した。

9. 本書に使用した現場写真は上記調査員が、遺物写真は小山正子、末吉美記、溜潤俊子がこれを撮影した。

10. 本書で使用した遺物観察表は、小畠の他、江口　路、鬼塚、首藤優子、溜潤、長谷、山寄が作成した。

11. 本書に掲載した出土遺物および記録類は、すべて熊本大学埋蔵文化財調査室が保管している。

12. 本書の編集は小畠が行った。

本文目次

1. 発掘調査の経緯と調査経過	
(1) 発掘調査の経緯	1
(2) 調査経過	1
2. 周辺の遺跡と既往の調査の概要	
(1) 遺跡の立地と周辺の遺跡	1
(2) 既往の調査と成果	3
3. (本庄南) 発生医学研究センター施設整備事業に伴う発掘調査 (0314調査地点)	
(1) 調査の目的と経過	11
(2) 調査区の基本層序	12
(3) 検出遺構	12
(4) まとめ	14
4. (本庄南) 発生医学研究センター施設整備事業に伴う発掘調査 (0402調査地点)	
(1) 調査の目的と経過	15
(2) 調査区の基本層序	15
(3) 検出遺構	18
(4) 出土遺物	26
(5) まとめ	31

挿図目次

図1 本庄遺跡の位置と周辺遺跡の分布図 (1/25000)	2
図2 PFI事業関連の調査地点配置図(1/2000)	11
図3 0314調査地点遺構配置実測図 (1/450)	13
図4 0402調査地点調査用土層断面実測図 (1/100)	16
図5 0402調査地点遺構配置図 (1/250)	17
図6 1号溝・3号・4号・5号溝実測図 (3/200・ 1/60)	19
図7 各溝の上層断面実測図 (1/50・1/25)	20
図8 15号竪穴住居址実測図 (1/50)	22
図9 30号竪穴住居址実測図 (1/50)	23
図10 21号竪穴遺構実測図 (1/50)	24
図11 22号竪穴遺構実測図 (1/50)	25
図12 0402調査地点出土遺物実測図1 (1/4)	
	27
図13 0402調査地点出土遺物実測図2 (1/4・1/2)	28
図14 0402調査地点出土遺物実測図3 (1/2)	
	31

卷頭図版目次

1. 0402調査地点の鳥瞰写真（南より） 2. 0402調査地点の遺構検出状況（上空より）

図版目次

図版1 0314調査地点.....	33	図版5 0402調査地点.....	37
写真1 I区全景（西より）		写真24 10号・20号溝（北より）	
写真2 II区全景（南より）		写真25 10号溝土師器皿出土状況（南より）	
写真3 II区5号溝（東より）		写真26 14号溝土層断面（北より）	
写真4 II区7号溝（西より）		写真27 14号溝遺物出土状況1（西より）	
写真5 II区調査風景（南より）		写真28 14号溝遺物出土状況2（東より）	
図版2 0402調査地点.....	34	写真29 32号溝土層断面（南より）	
写真6 0402調査地点の鳥瞰写真（南より）		写真30 33号溝土層断面（北より）	
写真7 0402調査地点の遺構検出状況（上空 より）		写真31 33号溝内ピット（49号）遺物出土 状況（東より）	
図版3 0402調査地点.....	35	図版6 0402調査地点.....	38
写真8 I区全景（北西より）		写真32 21号竪穴遺構（西より）	
写真9 II区全景（北西より）		写真33 22号竪穴遺構遺物出土状況（北西よ り）	
写真10 III区全景（西より）		写真34 22号竪穴遺構土層断面（北より）	
写真11 II・III区全景（西より）		写真35 22号竪穴遺構竪状遺構（南西より）	
写真12 I区全景（南西より）		写真36 15号竪穴住居址（東より）	
写真13 I区南壁（北より）		図版7 0402調査地点.....	39
写真14 I区東壁（西より）		写真37 30号竪穴住居址遺物出土状況1（南 より）	
写真15 1号溝・2号土坑（南西より）		写真38 30号竪穴住居址遺物出土状況2（南 より）	
図版4 0402調査地点.....	36	写真39 30号竪穴住居址遺物出土状況3（南 より）	
写真16 1号溝（東より）		写真40 30号竪穴住居址（西より）	
写真17 1号溝土層断面（東より）		図版8 0402調査地点出土遺物1.....	40
写真18 2号土坑土層断面（東より）		図版9 0402調査地点出土遺物2.....	41
写真19 43・44・45溝（南より）		図版10 0402調査地点出土遺物3.....	42
写真20 43・44・45号溝（北西より）			
写真21 6号溝（南西より）			
写真22 6号溝土層断面（南西より）			
写真23 10号溝土層断面（北より）			

表目次

表1 本庄遺跡（本莊北・南地区）で実施され
た調査一覧（1995－2005年度）..... 4

表2 0402調査地点出土遺物一覧表..... 29

1. 発掘調査の経緯と調査経過

(1) 発掘調査の経緯

第16回埋蔵文化財調査委員会（平成15年4月21日（月）開催）において、平成15年度埋蔵文化財発掘調査予定（案）として、PFI事業（Private Finance Initiative：公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、運営能力及び技術的能力を活用して行う事業）で進めている本荘南地区発生医学研究センター施設整備事業についても、受注した事業者の依頼がある場合は調査を行うことが説明された。本委員会の席上、この件について埋蔵文化財調査委員会議決により、事業の遂行に伴う埋蔵文化財調査室による発掘調査が承認された。

これを受け、埋蔵文化財調査室は平成15・16・17年度事業として、事業者と協議の上、本事業に係る工事に先立ち立会調査および発掘調査を実施することにした。本調査地点は北側と西側に地下室をもつ旧建物があるが、この部分についても、基礎据方の間に遺構が存在する可能性から、基礎撤去前に立会調査を行うこととした。結果的に、また、逆し字状になる調査区の要（コーナー）部分も旧建物が存在したが、掘削の結果、この部分が地中深くまで破壊されていた以外は、遺構が良好に残存することが確認できた（0314調査地点）また、9511調査地点や9801調査地点などの成果から古代や中世の溝や竪穴住居址が存在することが予想された。

(2) 調査経過

建物建設に先立ち、既存建物（北側と西側）の基礎を撤去する工事が開始されたので、その基礎部分の掘削時に立会調査を行った（0314調査地点）。その結果基礎による破壊をまぬがれた部分から古代と思われる柱穴数個と本調査区につながる中世末の溝1条を検出した。

本体部の発掘調査は2004年4月13日から2004年5月31日まで実施した。本報告の主体はこの本体部分の発掘調査成果に関する報告である。その後2005年5月30日より、本建築物の外溝工事に伴って、6月4・5日、6月14日の3回に分けて立会調査を実施したが、5か所の調査箇所から少量の古代土器片1個を検出したものの、遺構は何も確認できなかった（2006『年報12』所収）。

2. 周辺の遺跡と既往の調査の概要

(1) 遺跡の立地と周辺の遺跡

医学部附属病院および医学部がある本荘地区は、本庄遺跡（熊本大学病院敷地遺跡）（熊本市埋蔵文化財地図No8-95）を包括する。本遺跡は黒髪町遺跡と同じく熊本平野を形成する扇状地形の中央を流れる白川の河岸堤防上に位置する遺跡であり、標高は13~12mである。附属病院の所在する白川寄りの地点が標高が高く、南東部（医学部側）へと緩やかに傾斜する地勢である。敷地内を白川より分岐した小河川が暗渠として流れしており、古来この一帯は流路を変えながら幾本もの小河川が流れていた可能性が高い。『熊本市中央北地区文化財調査報告書』（熊本市教育委員会1980）によれば、1963年ごろ本大学医学部附属病院の敷地内から須恵器、土師器、布目瓦片類が採集されており、遺跡の存在が確実であるとされ、遺跡としての認定を受けている。しかし、その後本敷地内において学術的な発掘調査は一度も実施されておらず、遺跡の詳細な内容に関しては本調査室における調査が実施されるまで不明であった。しかし、先の報告の中では、東側に隣接する仙崇寺小松原墓地（現在の小松原公園）内においても須恵器片が採集され、遺跡の包含地がより広いことが想定されていた。このため、

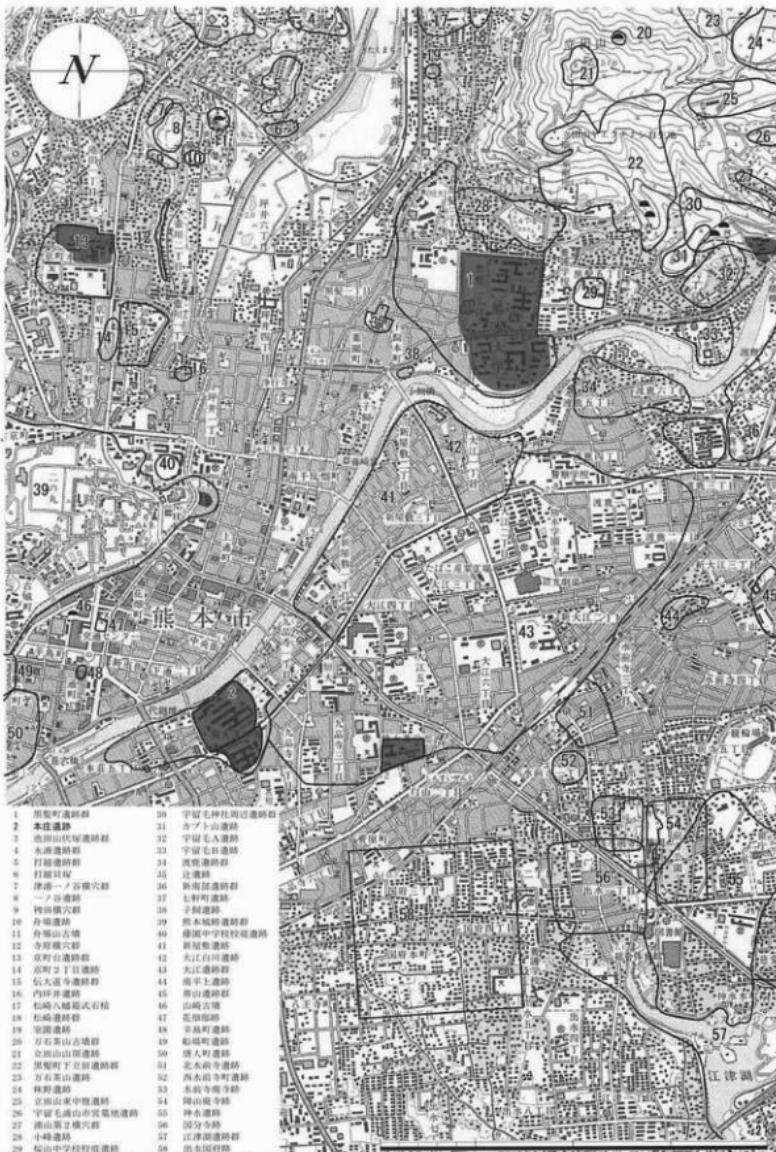


図1 本庄遺跡の位置と周辺遺跡の分布図（1/25000）
 （この地図は国土地理院発行1/25000地形図「熊本」を使用したものである）

1995年に道路を挟んで隣接する医学部敷地内において計画されたRI総合センター遺伝子実験施設の建築に先立ち試掘調査を実施したところ、良好な状態で古代の遺構群が検出され、遺跡の広がりを確認することができた。よって、遺跡の範囲は東西500m、南北500mを超えるものと推定される。医学部短期医療短大の位置する丸品寺地区は、この遺跡の範囲に入る。本格的な発掘調査が実施されていないため、詳細は不明であるが、敷地中央部における立会調査において古代の遺物包含層が確認されている。今回の調査地点は丸品寺地区と北地区の間に位置している。

(2) 既往の調査と成果

これまで、医学部附属病院（本荘北地区）および本荘南地区で実施された埋蔵文化財調査室による埋蔵文化財に係る調査は表1のとおりである。

<本荘北地区>

医学部校舎建設に伴う発掘調査（9601調査地点）（表1：6-13）

1996年に大学病院構内の北東部で実施された発掘調査である。調査面積は関連する立会調査も含めて約2000m²である。もっとも古い遺物としては縄文時代後期前葉の土器が出土している。縄文時代の遺物はこれ以外に後期後半の黒色磨研土器片とともに黒曜石の破片などを含む土坑が検出されている。古墳時代の遺構としては、前期の土師器を含む竪穴住居址が1基検出されており、この白川沿いの地点に古墳時代の集落が存在したことを示している。本調査地点をもっとも特徴づけるものは古代の遺構群であり、7世紀末～8世紀中ごろの南北方向の道路址と思われる溝と竪穴住居址群、8世紀後半～9世紀初の区割り溝（堀）と竪穴住居址群である。とくに後者の溝からは「クホンジ」と發音できる「秋本寺」や「佛」などの文字が刻書された澄明皿に使用された土師器壊が多量に出土しており、区画内部にある掘立柱建物址とともに、有力氏族の寺院址を示す可能性もあり、当地域の古代史を語る上できわめて重要な遺構・遺物群が検出されている（1997『年報3』所収）。

病棟（軸）新営工事に伴う発掘調査（9901調査地点）（表1：26）

1999年に大学病院構内の北西部で実施された発掘調査である。発掘調査面積は2405m²である。調査面積も広く、古墳時代前期から古代にかけての多数の以降が検出されている。調査区北半分を中心に、古墳時代前期の竪穴住居址9基と土坑3基、8世紀初頭（もしくは古墳時代末？）の大型竪穴住居址1基、8世紀後半の竪穴住居址9基、9世紀前半の竪穴住居址3基、掘立柱建物址6棟などが、調査区の南半分を中心として古墳時代末～古代の溝18条が検出されている。南半分は地形的に低くなっている。当時は、現在大学病院構内を東西に流れる水路に沿って、浅い谷や河川が存在したものと思われる。この他、土師器壊に須恵器蓋をかぶせた胎衣壺や中世期と思われる短刀と土師皿を副葬した土塚墓（人骨を伴う）が検出されている。先の9601点で予想された古墳時代前期の遺構が白河沿いに存在することを証明した調査であった（2000『年報6』所収）。

基幹・環境整備第3井戸受水槽設営工事に伴う発掘調査（0006）（表1：33-40）

2000年に大学病院構内の最西北端で実施された発掘調査である。調査面積は関連する立会調査も含めて約300m²である。上記の9901調査地点の北側、白河沿いの地点にあたる。I区からは古墳時代前期の竪穴住居址3基と古代の竪穴住居址1基が検出されている。また、II区からはおびただしい量の土師器を投棄した古墳時代前期の溝状遺構が検出されている（2000『年報7』所収）。

附属病院医学部総合研究棟新営工事に伴う発掘調査（0101）（表1：41）

2001年に大学病院構内北部中央で実施された発掘調査である。発掘調査面積は約1700m²である。調査区は南側へ傾斜しており、中世の遺構検出面の上位には18～19世紀ごろと思われる畑垣（畝）が砂

表1 本庄遺跡（本庄北・南地区）で実施された調査一覧（1995-2005年度）

番号	調査日	調査No.	地 点 名	調査内容	調査面積	時 代	遺 槽・遺 物	掲載専
1995年度								
1	95-11-6 ～8	9511	(本庄南) 医学部 RI 総合センター 遺伝子実験施設建設及び外溝切 り替え	試掘調査		古代	古代包含層確認・竪穴住居 址・古代土器・須恵器	年報2
2	95-11-24	9511	(本庄南) 医学部 RI 総合センター 遺伝子実験施設建設工事	立会調査			一部包含層確認・遺構・遺 物なし。	年報2
3	95-12-1	9511	(本庄南) 医学部 RI 総合センター 遺伝子実験施設建設に伴う外溝 切替	立会調査	200m ²		包含層確認・遺構・遺物な し。	年報2
4	95-12-4	9517	(本庄南) 医学部 RI 総合センター 遺伝子実験施設に伴う樹木移植	立会調査			遺構・遺物なし。	年報2
5	95-12-25 ～96-2-22	9511	(本庄南) 医学部 RI 総合センター 遺伝子実験施設建設	発掘調査	976.9m ²	縄文・古代	古代竪穴住居址・柱立柱建 物・溝・道路・方形溝水道 橋・土壙・織文土器・石器 ・古代土器・須恵器・鉄 器	年報2 本報告1
1996年度								
6	96-4-19	9601	(本庄北) 医学部校舎建設	試掘調査	33m ²	古代	古代包含層・溝・古代土器 ・須恵器	年報3
7	96-8-6 ～9	9601	(本庄北) 医学部校舎建設に伴 う樹木移植・貯木槽建設工事 (1-2-3区)	発掘調査	45.7m ²	古墳・古代	古墳時代前開口竪穴住居址・ 古代竪穴住居址・古墳時代 土器・古代土器・須恵器	年報3
8	96-8-22 ～27	9601	(本庄北) 医学部校舎建設に伴う 切り替え道路建設(4区)	発掘調査	37.4m ²	古代	竪穴住居址・柱穴・古代土 器・須恵器	年報3
9	96-8-29 ～30	9601	(本庄北) 医学部校舎建設に伴う 切り替え道路建設(5区)	発掘調査	28.2m ²	古代	竪穴・古代土器・須恵器	年報3
10	96-10-1 ～9	9601	(本庄北) 医学部校舎建設に伴う 排水管替え工事(6区)	発掘調査	104.3m ²	古代	古代道路・竪穴住居址・古 代土器・須恵器	年報3
11	96-10-11 ～97-1-17	9601	(本庄北) 医学部校舎本体工事 (本調査区)	発掘調査	1686m ²	縄文・古墳 ・古代	縄文包含層・古墳土壙・古 代道路・竪穴住居址・柱 ・柱建物・土壙・近代墓地・ 縄文後期土器・古墳・古代 土器・須恵器・鉄器・石 器	年報3
12	96-10-21 ～29	9601	(本庄北) 医学部校舎建設に伴う 排水管替え工事(7-8-9区)	発掘調査	625m ²	古代	古代竪穴住居址・竪・古代 土器・須恵器	年報3
13	96-11-12 ～13	9601	(本庄北) 医学部校舎建設に伴う 排水管替え工事(10区)	発掘調査	21.8m ²	古代	古代竪穴住居址・古代土器 ・須恵器	年報3
1997年度								
14	97-4-8	9701	(本庄南) 医学部情報リテラシー 教育施設電気設備その他の改修 工事	立会調査	21m ²		一部包含層を確認・遺構な し・古代土器	年報4
15	97-5-28	9703	(本庄北) 医学部外来臨床研究棟 血液要剤管理室取扱工事	試掘調査	4m ²		遺構・遺物なし。	年報4
16	97-11-11 ～98-3-31	9707	(本庄北) 医学部基礎研究棟屋外 配線工事	立会調査	370m ²	古代・近代	近代墓地・古代土壙・竪穴・ 壙・人骨・墓石等・古代土 器。	年報4
1998年度								
17	98-6-26 ～7-2	9801	(本庄南) 医学部エイズ学研究 センター・動物資源開発センター 新畜支障配管替工事	立会	24m ²	古代	遺構・遺物認められず。	年報5

18	98-7-6	9801	(本荘市) 同樹木伐採工事	立会		遺構・遺物なし	年報5
19	98-7-28 ~9-10	9801	(本荘市) 医学部エイズ学研究 センター・動物資源開発研究セン ター新設工事	発掘調査	972m ²	縄文・古代・ 近世	堅穴住居址・柱立柱建物・ 溝・土壤
20	98-9-28	9805	(本荘市) 大学病院病棟新設工 事	試掘調査	10m ²	古墳・古代	古墳・古代土器
21	98-9-29	9806	(本荘市) 大学病院中央診療棟 新設工事	試掘調査	5m ²		河成砂礫層を検出。遺構・ 遺物なし。
22	98-9-30	9807	(本荘市) 大学病院薬剤部注射 患者毎セット支給室等取設工事	試掘調査	2m ²	古代	遺物包含層・柱穴痕跡。古 代土器片。
23	98-10-28 ~11-20	9807	(本荘市) 大学病院薬剤部注射 患者毎セット支給室等取設工事	発掘調査	175m ²	古代	縄文土器・石器等 古代堅穴住居址・土壤・溝 ・近代溝
24	98-11-2	9801	(本荘市) 医学部エイズ学研究 センター・動物資源開発研究セン ター開設準備解体工事	発掘調査	139m ²		削平のため存在せず。
24	98-12-17 ~99-1-10	9805	(本荘市) 大学病院病棟新設工 事に伴う支管配管工事	立会	333m ²	古代	堅穴住居址・古代土器片
25	99-3-10 ~31	9801	(本荘市) 医学部エイズ学研究 センター・動物資源開発研究セン ター新設に係る配管切替工事	立会調査	57.5m ²	古代	一部包含層・遺構面確認 (ピット)・遺物なし

1999年度

26	99-4-5 ~8-31	9901	(本荘市) 病棟(軸) 新設工事	発掘調査	2,405m ²	縄文・古墳・ 古代・近代	縄文時代石器・玉・古墳時 代住居址・溝・土器器・古 代住居址・柱穴溝・土壤窓 ・土器器・須恵器・鉢器・ 陶衣窓・土鏡・近代旗。
27	99-6-14 ~7-14	9902	(本荘市) 医学部エイズ学研究 センター・動物資源開発研究セン ター新設電設工事立会	立会調査	40m ²	古代	古代柱穴・溝・遺物を少量 検出
28	99-7-19 /26	9904	(本荘市) 医学部エイズ学研究 センター・動物資源開発研究セン ター新設基礎工事立会	立会調査	2m ²	古代	遺構・遺物なし
29	00-1-25	9910	(本荘市) 血液照射管理室改 築試掘	試掘調査	2m ²		擾乱著しく、遺構・遺物と もに確認できず
30	00-3-2	9913	医学部消化窓新設供給設備新設工 事立会	立会調査	7.84m ²		遺構・遺物なし
31	00-3-16 ~17	9914	(本荘市) さく井設備工事立会	立会調査	25m ²		遺構・遺物なし

2000年度

32	00-4-17	0003	(本荘市) 附属病院施設移設 工事	試掘調査	5.8m ²		遺構・遺物なし
33	00-11-6 ~22	0006	(本荘市) 附属病院基幹・環境 整備第3井戸入水槽設置工事(Ⅰ区)	発掘調査	119.4m ²	縄文・古墳 古代	縄文時代石器・古墳時代柱 穴・住居址・土器器・須恵 器
34	00-11-22	0006	(本荘市) 附属病院基幹・環境 整備第1井戸入水槽設置工事	試掘調査	4m ²	近・現代墓地	近・現代墓石・墓壙・遺骨
35	00-11-27 ~29	0006	(本荘市) 附属病院基幹・環境 整備水管配管工事(Ⅱ区)	立会調査	85.5m ²		遺構・遺物なし
36	00-12-4 ~13	0006	(本荘市) 附属病院基幹・環境 整備排水管配管工事(Ⅲ区)	発掘調査 立会調査	32m ²	縄文・古代	土壤状遺構・縄文時代石器 ・土器器・ガラス玉・鉢器 ・須恵器
37	00-12-8 ~01-1-10	0006	(本荘市) 附属病院基幹・環境 整備電気設営工事(IV区)	立会調査	31.5m ²	古代	遺構なし・土器器数点

38	00-12-19 ~20	0006	(本莊北) 附設病院基幹・環境 整備排水管配管工事(Ⅲ区)	発掘調査 立会調査	204m ²	古代	住居址・土師器	年報7
39	00-12-26 ~28	0006	(本莊北) 附設病院基幹・環境 整備排水管配管工事	立会調査	100.7m ²	近・現代墓地	近代墓標・墓石・遺骨	年報7
40	01-1-29	0006	(本莊北) 附設病院基幹・環境 整備排水管配管工事(Ⅴ区)	立会調査	7m ²		遺物・遺構なし	年報7
2001年度								
41	01-4-9 ~7-3	0101	(本莊北) 附設病院医学部統合 研究棟新工事	発掘調査	1733.75m ²	古墳・古代・ 近世・近代	住居址・溝・烟址・高鉄錠 ・土師器・須恵器	年報8
42	01-7-4 ~10-29	0104	(本莊北) 附設病院基幹・環境 整備(共同溝設置)	発掘調査	1,023.8m ²	绳文・弥生・ 古墳・古代	住居址・溝・绳文土器・弥 生土器・土師器・須恵器・ 石器・鐵錠・青銅器	年報8
43	01-9-4	0111	(本莊南) 医学部キャンパス情 報ネットワークその他の工事	立会調査	278m ²		遺構・遺物なし	年報8
44	01-9-14 /10-1	0113	(本莊南) 医療技術短期大学キ ャンパス情報ネットワークその他の 工事	立会調査	105m ²		遺構・遺物なし	年報8
45	01-9-17	0114	(本莊北) 附設病院キャンパス情 報ネットワークその他の工事	立会調査	36m ²		遺構・遺物なし	年報8
46	01-10-22 ~02-2-19	0116	(本莊北) 附設病院基幹・環境 整備(A-D地区・ボイラー設 備更新等)	立会調査	4264m ²		遺構・遺物なし	年報8
47	01-12-8 ~02-2-9	0117	(本莊北) 医学部統合研究棟新 營機械設備工事	立会調査	133.1m ²	古代	住居址・柱基礎土器・須 恵器	年報8
48	02-2-25 ~3-20	0119	(本莊北) 医療用ガス供給設備 室取設工事	発掘調査	205.8m ²	绳文・古墳・ 古代	住居址・溝・掘立柱建物址 ・绳文土器・土師器・須恵 器・鐵錠	年報8
49	02-3-18	0120	(本莊北) 総合研究棟周辺環境 整備工事	立会調査	1492.7m ²		遺構・遺物なし	年報8
50	02-3-18	0121	(本莊北) 附設病院西病棟(仕 上Ⅱ) 新工事	立会調査	10764m ²		溝?・遺物なし	年報8
51	02-3-22	0122	(本莊北) 附設病院西病棟電気 設備工事(仕上Ⅱ)	立会調査	54m ²		遺構・遺物なし	年報8
2002年度								
52	02-10-7	0211	(本莊北) 医学部統合研究棟新 營工事(渡り廊下部分)	立会調査	32m ²		遺構・遺物なし	年報9
53		0213	(本莊北) 総合研究棟新電気 設備工事	立会調査	216m ²		遺構・遺物なし	年報9
54	03-2-7	0214	(本莊北) 基幹環境整備外灯工 事	立会調査	216m ²		遺構・遺物なし	年報9
55	03-3-7	0217	(本莊南) 体育部室(プレハブ) 新設工事	立会調査	3m ²		遺構・遺物なし	年報9
56	03-3-11	0219	(本莊南) 場新設工事	立会調査	36m ²		遺構・遺物なし	年報9
57	03-3-26	0220	(新南部) 教育学部新南部農場 竹藪・煙地境界掘り	立会調査	40m ²	古代	住居址・柱穴・溝・古代土 師器・須恵器	年報9
2003年度								
58	03.6.2 ~7.2	0304	(本莊北) 基幹・環境整備工事	発掘調査	333.5m ²	绳文・古墳・ 弥生・古代	住居址・溝・绳文土器・弥 生土器・土師器・近代磁器	年報10
59	03.9.4 ~9.8	0306	(本莊南) 医療技術短期大学部 北側駐車場整備工事	立会調査	539.2m ²		遺構・遺物なし	年報10
60	03.10.2	0309	(本莊南) 動物慰靈碑新設工事	立会調査	4.02m ²		遺構・遺物なし	年報10

61	03.11.17 ~28	0310	(本莊南) 発生医学研究センター 施設整備事業	立会調査	557m ²	遺構・遺物なし	年報10
62	03.12.9		(本莊南) 発生医学研究センター 施設整備事業	試掘調査	26.58m ²		年報10
63	03.12.10	0311	(本莊北) 中央診療棟(輪) 整 備工事	立会調査	4m ²	遺構・遺物なし	年報10
64	04.1.23 ~27	0314	(本莊南) 医学部B棟・E棟・ R1・旧動物舍取壊工事	発掘調査	1,567m ²	古代 潟・ビット・土師器	年報10
65	04.1.30	0315	(本莊北) 東側駐車場整備工事	立会調査	30.7m ²	遺構・遺物なし	年報10
66	04.2.23	0317	(本莊北) 信樹の木移植	立会調査	16m ²		年報10
67	04.3.4	0318	(墨北) 附属養護学校門横市道 水道修理工事	立会調査	2m ²	遺構・遺物なし	
68	04.3.5 ~9	0314	(本莊南) 医学部B棟・E棟・ R1・旧動物舎取壊工事	発掘調査	1,567m ²	中世・古代 潟・ビット・陶磁器・土師 器	年報10
69	04.3.11	0324	(本莊南) 外灯設備工事	立会調査	4m ²	遺構・遺物なし	
70	04.3.11	0325	(本莊南) 外灯設備工事	立会調査	112m ²	遺構・遺物なし	
2004年度							
71	04.4.9		本莊南地区中央診療棟(輪) 設営工事	試掘調査	10.44m ²	古代 潟?・土師器	年報11
72	04.4.13 ~5.31	0402	本莊南地区発生医学研究セン ター建設工事	発掘調査	1241.75m ²	古代 土師器・須恵器・縄文土器	年報11
73	04.5.14 04.10.14	0403	本莊南地区中央診療棟(輪) 設営工事	立会調査	150m ²	古代 土師器	年報11
74	04.6.28		本莊南地区(医病) 基幹・ 環境整備工事	試掘調査	10m ²	古代・縄文 土師器・縄文土器・土塼	年報11
75	04.8.17 ~19.23 04.9.3 04.9.14 ~22 05.1.27~	0411	本莊南地区(医病) 基幹・ 環境整備(ギンベ塗・R1実験 地取扱・ガス切替・水道プラグ 止・周辺設置開削) 工事	立会調査 発掘調査	420m ²	古代・縄文 土師器・須恵器・縄文土 器・堅穴住居址・溝・ビット	年報11
76	04.9.16	0412	本莊南地区附属病院都市ガ ス配管修理工事	立会調査	5.7m ²	遺構・遺物なし	年報11
77	04.9.21	0416-1	本莊南地区附属病院台風被 害による倒木起し	立会調査	8m ²	遺構・遺物なし	年報11
78	04.9.21	0416-2	本莊南地区医学部台風被 害による倒木起し	立会調査	15m ²	遺構・遺物なし	年報11
79	04.10.22	0419	本莊南地区附属病院福利厚 生施設引込配線工事	立会調査	223m ²	遺構・遺物なし	年報11
80	04.11.1 ~28	0411	本莊南地区(医病) 基幹・ 環境整備	発掘調査	551m ²	縄文・古墳・ 古代 土師器・須 恵器・縄文土器・鐵 器・勾玉・石器	年報11
81	04.12.6	0422	本莊南地区中央診療棟(輪) 工事	立会調査	66.39m ²	遺構・遺物なし	年報11
82	04.1.11	0424	本莊南地区ポンベ塗取設工 事	立会調査	14.5m ²	遺構・遺物なし	年報11
83	05.2.4、 8~9	0426	本莊南地区防火水槽取設工 事	試掘・発掘 調査	84m ²	中~近世 土師器・須 恵器・馬糞・刷 鉢	年報11
84	05.2.28、 3.14、4.1	0430	本莊南地区駐車場環境整備 工事	立会調査	1,846m ²		
85	05.3.24	0442	(本莊北) 附属病院福利厚生ガ ス管工事	立会調査	918m ²	遺構・遺物なし	

86	05-3-24	0443	(本荘北) 中央診療棟連結棟Ⅱ 管工事	立会調査	0.8m ³		遺構・遺物なし	
2005年度								
87	05-4-19 ~4-20	0501	本荘団地南地区駐車場環境整備 工事(追加)	立会調査	28m ³	古代	土師器・須恵器	年報12
88	05-4-27	0502	医学部附属病院排水貯留槽ポン プアップ排水管補修	立会調査	4m ³		遺構・遺物なし	年報12
89	05-5-30, 6-4~ 6-5 6-14	0503	(本荘) 発生医学研究センター 施設整備事業(外構)	立会調査	2337.2m ³		遺構・遺物なし	年報12
90	05-6-9 ~6-10 6-12	0505	(医病) 基幹・環境整備(設備・ 曳き家前)	立会調査	55.96m ³		遺構・遺物なし	年報12
91	05-6-21	0507	(本荘中) 訓地境界ブロック改 修工事	立会調査	10.5m ³		遺構・遺物なし	年報12
92	05-7-13 ~7-14 7-19 ~9-30	0509	(医病) 基幹・環境整備(曳き 家・移築先)	発掘調査	1147m ³	縄文・弥生 古墳・古代	住居址・溝・土師器・須恵 器	年報12
93	05-7-19	0511	本荘団地北地区雨水配管補修	立会調査	7.6m ³	古代	包合層・土師器・須恵器	年報12
94	05-9-1. 9-20	0517	(医病) 基幹・環境整備(曳き 家・現地)	立会調査	1337m ³		遺構・遺物なし	年報12
95	05-9-13	0518	附属病院都市ガス設備改修工事	立会調査	29m ³		遺構・遺物なし	年報12
96	05-9-15	0520	本荘団地北地区入退院棟前ス ロープ取設工事	立会調査	17.18m ³		遺構・遺物なし	年報12
97	05-9-15	0521	本荘団地(北地区) 台風倒木引 起し	立会調査	2.355m ³		遺構・遺物なし	年報12
98	05-9-16	0522	医学部附属病院管理棟屋外給水 バルブ取替工事	立会調査	2.25m ³		遺構・遺物なし	年報12
99	05-9-27	0523	(医病) 中央診療棟(上)	立会調査	57.6m ³		遺構・遺物なし	年報12
100	05-10-11	0524	本荘団地(北地区) 駐車ゲート 整備工事	立会調査	261.33m ³		遺構・遺物なし	年報12
101	05-10-25	0529	(医病) 外来診療室研究棟玄関前 環境整備工事	立会調査	381.12m ³		遺構・遺物なし	年報12
102	05-12-14	0535	医学部弓道場設備工事	立会調査	82.73m ³		遺構・遺物なし	年報12
103	05-12-22	0539	本荘団地(中地区) ゴミ置場取 設	立会調査	48.51m ³		遺構・遺物なし	年報12
104	06-1-10. 1-25	0540	本荘団地(南地区) 管設ガス管 改修工事	立会調査	61.8m ³		遺構・遺物なし	年報12
105	06-1-27	0542	(医病) 基幹・環境整備(曳き 家・移動経路)	立会調査	1464m ³		遺構・遺物なし	年報12
106	06-2-13	0543	附属病院職員厚生施設櫻庭整備	立会調査	338.9m ³		遺構・遺物なし	年報12
107	06-2-16. 3-13	0544	(医病) 基幹・環境整備(設備・ 曳き家後)	立会調査	39m ³		遺構・遺物なし	年報12
108	06-3-13	0548	本荘団地(中地区) 渡り廊下設 置	立会調査	5.5m ³		遺構・遺物なし	年報12
109	06-3-24	0549	(医病) 外来化学療法センター 屋外汚水管工事	立会調査	1.92m ³		遺構・遺物なし	年報12

層に覆われて2面以上存在していた。この堆積は南側へ行くに従い厚くなってしまっており、先の9901調査地点のところで説明したように、現在の水路はこの旧谷の痕跡と思われる。3面で検出した遺構は、近世道構の座位で埋葬された土壙墓（人骨を伴う）1基、短刀と砥石を副葬した中世期と思われる土壙墓（人骨を伴う）1基、古代の溝3条、堅穴住居址2基、掘立柱建物址1基、古墳時代前期の堅穴住居址1基である。縄文時代後期後半の土器が若干出土している（2002『年報8』所収）。

附属病院基幹・環境整備（共同溝設置）（0104調査地点）（表1：42）

2001年に大学病院敷地の北西部を中心とした地点で実施された発掘調査である。発掘調査面積は約1000m²である。検出された主な遺構は、弥生時代前期の環濠と思われる溝1条、古墳時代前期の堅穴住居址5基、同期の区画溝と思われる幅3m、深さ15m以上の溝3条、古代の堅穴住居址14基、掘立柱建物址1基、地鎮遺構1基、井戸址1基である。本地点の調査成果は、いずれの時代に関しても重要な知見をもたらした。弥生時代前期の溝はこの一帯に同期の環濠集落が存在した可能性を示している。残念ながら北側は白川、南側は病院内建物群によってすでにその大部分が破壊されているが、わずかながらの証拠であっても、熊本平野における弥生時代の集落変遷を語る上できわめて重要な資料と考えられる。また、古墳時代の前期の集落群も詳細な機能は不明であるが、0006地点でも検出された、多量の土師器を投棄した区画溝、そして堅穴住居址群は、これも前期古墳の存在しない白川下流域の古墳時代の集落変遷を語る上で貴重な資料である。古代の井戸址の存在も、単なる農民集落という性格ではない、氏族居館や官衙関連施設などを想像させる遺構であり、今後重要な資料となろう（2002『年報8』所収）。

医療用ガス供給設備室取設工事（0109調査地点）（表1：48）

2001年に大学病院敷地の最北西端の0006調査地点の東側で実施された発掘調査である。発掘調査面積は約200m²である。縄文時代、古墳時代、古代時代の住居址、溝、掘立柱建物址などの遺構や縄文土器、土師器、須恵器、鉄鎌などが出土したとあるが、詳細は不明である（2002『年報8』表2参照）。

基幹・環境整備工事に伴う発掘調査（0304調査地点）（表1：58）

2003年に大学病院敷地の北部中央西よりの地点で実施された発掘調査である。発掘調査面積は約330m²である。0104調査地点の東部が本調査地区の西側と南北に重なっており、0104調査地点で検出された弥生時代前期の溝の続きが検出されている。さらに、この地点でも溝底に多量の土師器を含む古墳時代前期の区画溝1条が検出されている。古代の遺構としては、掘立柱建物址1棟、堅穴住居址2基が検出されている（2004『年報10』所収）。

基幹・環境整備工事に伴う発掘調査（0411調査地点）（表1：75・80）

2004年に大学病院敷地の南西部の地点で実施された発掘調査である。発掘調査面積は関連する立会調査も含めて970m²である。遺構検出面は2面あり、上面では近世～近代の溝4条と柱穴群、古代の烟址（歛址）が、下面では古代の溝3条、掘立柱建物址4棟、堅穴住居址4基、古墳時代の堅穴住居址3基が検出されている。古墳時代の堅穴住居群の検出はこの地域では初めてであり、5世紀中ごろの集落を示す例としてはきわめて貴重である。また古代溝は9601調査地点で検出された区画溝と同じ構造をもっており、それらとどのような関係にあったのか、興味の持たれるところである（2005『年報11』所収）。

基幹・環境整備工事（曳き家・移動先）に伴う発掘調査（0509調査地点）（表1：95）

2005年に大学病院敷地の南西部、0411調査地点の北側隣接地で行われた発掘調査である。発掘調査面積は約1150m²である。検出された遺構は、古墳時代では、5世紀前半代の堅穴住居址7基、5世紀後半～6世紀の溝1条、古代では、7世紀後半～8世紀後半代の堅穴住居址10基、8世紀後半～9世

紀前半代の溝2条、9世紀後半～12世紀の溝1条、近世・近代では、墓8基、溝4条がある。縄文時代の土坑も検出されている。調査区を斜めに走る古代溝は、0411調査地点から連なるものである。また、この調査は、0411調査地点で検出されていた5世紀代の竪穴住居址群が北側へより濃密に分布することを明らかにした点でも重要である（2006『年報12』所収）。

＜本荘南地区＞

医学部RI総合センター遺伝子実験施設建設に伴う発掘調査（9511調査地点）（表1：1-5）

1995年に医学部構内の南西部で実施された発掘調査である。調査面積は関連する立会調査も含めて約1200m²である。本調査区でもっとも古い遺物は縄文時代後期後半の黒色磨研磨土器とそれに伴うと考えられる打製石斧や石皿などの石器であり、未検出ではあるが、住居址があった可能性もある。古墳時代後期に属する可能性のある溝2条、7世紀末～8世紀中ごろの溝1条と竪穴住居址2基、8世紀後半～9世紀初の竪穴住居址や土坑6基、道路状遺構1基、溝数条、中世（16世紀末以降）1条、近代溝1条などが検出されている（2003『本報告I』所収）。

医学部エイズ研究センター・動物資源開発研究センター建設に伴う発掘調査（9801調査地点）

（表1：17・19・24・25・27・28）

1998年に医学部構内の北東部で実施された発掘調査である。調査面積は関連する立会調査も含めて1200m²である。本調査区でもっとも古い遺物は、わずかに縄文時代後期末の黒色磨研磨土器と打製石器や石鏡などが包含層から検出されている。古墳時代末以降は多くの溝が検出されている。溝は7世紀初のはば東西方向をとる溝1条、7世紀後半代の南北方向の溝2条、8世紀後半～9世紀初の同方向を示す溝5条、近代のやや東へ触れる溝1条とそれに敷設された溝1条がある。これにより、古代初において南北方向を基軸とする区画が成立していることがわかる。8世紀後半～9世紀初には調査区北部で竪穴住居址が検出されている。また調査区の東端で1棟の掘立柱建物址が検出されている。8世紀後半代以降のものと推定されている。9世紀前半代の土師器壙を副葬した火葬墓らしきものが1基発見されている。30～33号溝からは硯片や平瓦片、鰐羽口片などが検出されており、近くに铸造関係の工房址などが在した可能性が想定されている（1999『年報5』所収）。

以上のように、これまでの調査成果をみると、本庄遺跡では、縄文時代後期中葉から遺跡が形成されていることがわかる。縄文時代の遺構や遺物は北地区と南地区の両地点に散漫ではあるがまんべんなく分布している。次の弥生時代前期には北地区の白川沿いにおいて環濠の一部が検出されている。すでに破壊が著しくその規模は不明であるが、次の古墳時代前期の区画溝と竪穴住居址をもつ集落址とともに、白川中流域でこれまで不明であった時期の遺構群が検出されている点で重要である。さらに古墳時代中期の集落跡は南への広がりを見せる。この時期の遺構も局所的であり、今後の周辺部での調査が重要となってくる。古墳時代までの遺構の密度をみると古い時期ほど白川沿いに濃い分布をもつことが明らかになっている。

古代においても北地区できわめて重要な発見が相次いでいる。道路址や寺院址の遺構の存在がそれである。しかし、南地区的少ない調査でも当該期の遺構群は存在しており、今後は一帯における道路や建物址などの配置を検討し、どのような機能差をもった建物群が存在したのかが今後の調査の焦点となるものと思われる。

3. (本荘南) 発生医学研究センター施設整備事業に伴う発掘調査 (0314調査地点)

(1) 調査の目的と経過

a. 調査地と調査経緯

本調査地点は2003年度に開始されたPFI事業による発生医学研究センター建設の整備事業の一環として実施された基礎研究棟B棟と基礎研究棟E棟の解体工事に伴う発掘調査である。隣接地で実施した1998年度の医学部エイズ研究センター建設に伴う岡古館の解体工事の際は、基礎撤去後に現場において埋蔵文化財の有無を確認したが、このときは基礎撤去に伴いすでに削平されていた。このため、今回は建物上物の撤去後、基礎部分において試掘を行い、埋蔵文化財の有無を確認することとした。2003年12月23日、B棟解体時に試掘を実施した。この部分は地下室となっていたが、基礎掘削部の間に削平をまぬがれた部分が残存していることを確認することができた。このため、基礎上部の撤去後に重機を入れて確認したところ、一部に遺構が残存していることが判明したため、すぐに発掘調査に切り替え、調査を実施した(図3)。

E棟においても、B棟での経験から、遺構が残存する可能性が高いため、施工業者と協議の上、基礎上部撤去後の3月5日に試掘を実施した。この結果、一部において遺構を確認したため、発掘調査に切り替えた。B棟部分をI区、E棟部分をII区と呼称し、遺構番号は連続して付した。発掘した調査面積は、I区が700m²、II区が300m²である。

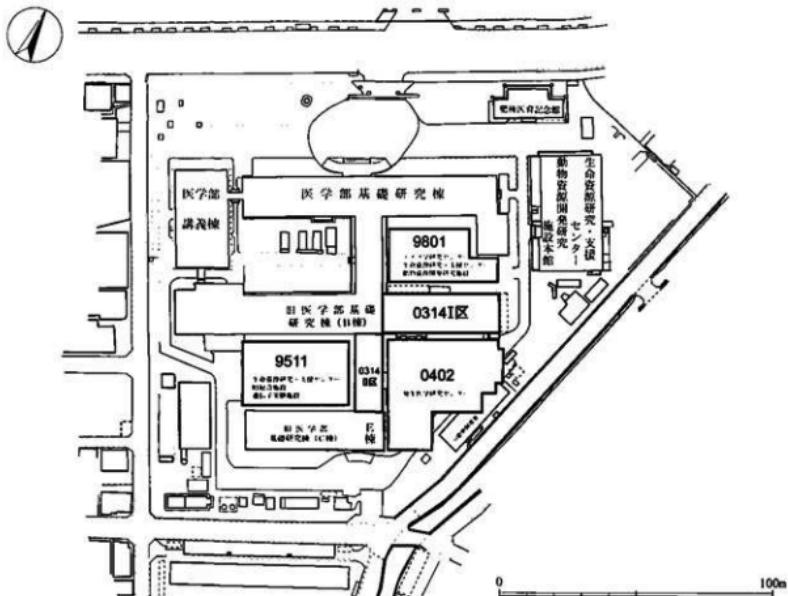


図2 PFI事業関連の調査地点配置図 (1/2000)

b. 調査の経過

- 2004年1月23日 I区 重機で表面の擾乱土を除く。発掘調査開始。
2004年1月27日 I区 写真撮影後、発掘調査終了
2004年3月5日 II区 重機で表面の擾乱土を除く。発掘調査開始。
2004年3月9日 II区 写真撮影後、発掘調査終了

c. 調査の組織

調査員：小畠弘己

事務担当：坂元紀乃

発掘作業員：勝野義勝・白石美智子・溜瀬俊子・林田恵子・早田咲百合・番山明子・松井昭子・森川征子・森川謙

整理作業員：江口路・鬼塚美枝・小山正子・古賀敬子・古閑満代・首藤優子・末吉美紀・溜瀬俊子・林田恵子・早田咲百合・増井弘子・山岸早苗

(2) 調査区の基本層序

I区・II区ともいずれの調査区も地表下2mほど削平されていたが、黄褐色の地山（遺構面）と称する土壤は残存していた。しかし、10cmほど掘り下げるシルト質が強くなり、灰黄褐色～淡緑灰色のシルト・砂層へと移行する。このため、堆積層の上部がかなり削平されていることがわかる。もっとも深い溝（5号溝）が硬いシルト層を貫き、その底は灰褐色粗砂層まで達していた。

(3) 検出遺構（図3）

<遺構>

<溝>

5号溝

II区中央部を東西に走る幅2m、深さ60cmの溝である。断面形は台形状を呈する。16世紀後半の明染付碗や陶器擂鉢の破片が古代の土器片などとともに出土した。方向と位置関係から9511調査地点の北西隅で検出された10号溝に繋がるものと思われる。溝の形状および出土遺物の種類も一致する。

6号溝

II区中央部を東北東から西南西方向に走る幅0.5m、深さ7cmの小溝である。遺物は土師器・須恵器の小片があるのみであるが、9511調査地点の55溝に連続する。断面形は浅いレンズ状を呈する。8世紀後半代の住居址に切られていることから、時期はそれより遅る可能性がある。

7号溝

II区北側を北東から南西方向に走る断面形逆台形の幅1.0m、深さ15cmの溝である。土師器小片が出土した。位置関係から9511調査地点の19号溝に連続するものと思われる。9511地区での切り合い関係から、6号溝より新しいものと思われる。

1号溝

I区中央部西よりの部分で検出した幅0.4m、深さ5cmの断面形が浅いレンズ状をなす溝である。方向は南北方向に走る。9801地点の状況からみて同地点の30号～32号溝と一連の性格をもつものと思われるが、北側に延長した部分の9801点の調査区内には溝の延長部と思われる部分は検出されていない。出土遺物がなく、時期の詳細は不明であるが、覆土の状況から古代のものと思われる。

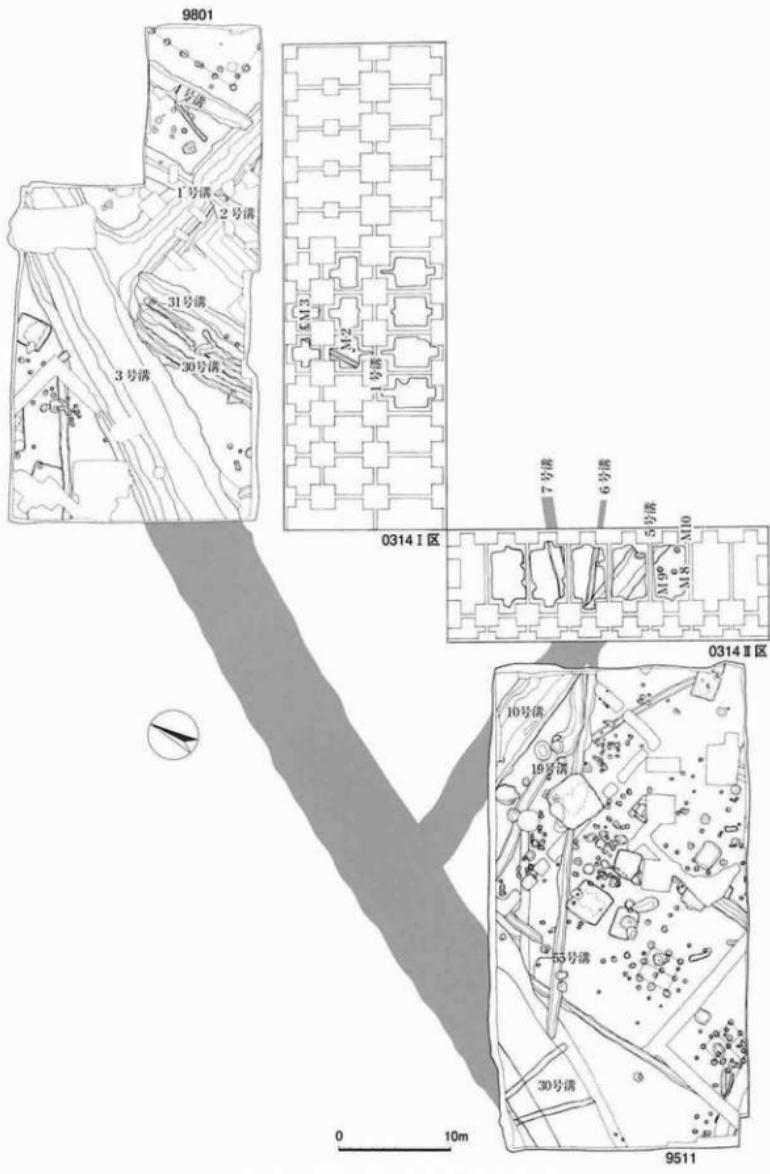


図3 0314調査地点遺構配置実測図 (1/450)

<ピット>

このほか、I区において2個、II区において3個のピットを検出した。II区において検出した3個のピット（M8・M9）は一連の構造物である可能性もある。遺物は1点も検出できていないが、覆土は黒褐色であり、本地点でも古い部類に入り、古代以前の時期が考えられる。

(4)まとめ

今回の調査によって、医学部敷地内の東南側部分においても遺構が良好に残っていることが判明した。よって、発生医学研究センター本体部においても遺構が存在する可能性が大きくなった。

これ以外に、今回の調査成果は、調査法に関する既存概念の訂正という点で意味があった。つまり、本地域においては、既存建物部分であっても、地表下2m前後であれば、遺構が削平を一部免れて残存していることが明らかになった点にある。これは、今後、建物新設のみならず、既存建物の解体に際して基礎を撤去する際には、必ず埋蔵文化財の有無を確認する必要があることを実証したもので、今後の学内整備の計画の際に留意すべき点である。

4. (本荘南) 発生医学研究センター施設整備事業に伴う発掘調査 (0402調査地点)

(1) 調査の目的と経過

a. 調査地と調査経緯

本調査は発生医学研究センター本体部に係る発掘調査である。調査予定地の西側と北側にある基礎研究棟B棟・E棟の地下室部分の発掘調査(0314調査地点)の成果から、遺構の残り具合は良好と考えられた。一次掘削の後、重機を入れて搅乱層の除去を行った。その結果、調査区の西半分中央は旧建物の基礎により遺構が破壊されていたため、この部分を土置き場とした。建物本体部の発掘調査面積は搅乱部分も含め1241.75m²である。

b. 調査の経過

- 2004年4月13日 作業員投入。発掘調査開始。
2004年4月14日 搅乱層除去。
2004年4月19日 各遺構平面図実測開始。
2004年5月11日 各溝土層断面図実測開始。
2004年5月18日 調査区東南壁実測開始。
2004年5月21日 現地説明会開催。
2004年5月21日 壁穴住居址群ほか遺物出土状況実測開始。
2004年5月30日 全体写真撮影。
2004年5月31日 発掘調査終了

c. 調査の組織

調査員：小畠弘己

事務担当：前田知聖

発掘作業員：橋本佳子・岡田イツ代・押方富江・河野義勝・黒木重信・黒木タケ子・小細工洋子・白石美智子・高松北子・溜瀬俊子・山崎早苗・西信二・林田恵子・早田咲百合・番山明子・福田久美子・堀川貞子・前田和子・前田日出男・松井昭子・松本和徳・桃井哲夫・森川征子・森川謙・森田登

整理作業員：江口路・鬼塚美枝・小山正子・古賀敬子・古閑満代・首藤優子・末吉美紀・溜瀬俊子・早田咲百合・増井弘子・山崎早苗

(2) 調査区の基本層序(図4)

本調査地点の基本層序は、地表下80~100cmほどは現代の搅乱・埋土である。その下部は地表下約130cmまではほぼ水平堆積をする以下の12枚の地層に分離できる。

- 1層：暗赤褐色土層(Hue5YR3/2) 厚さ15~20cm。
- 2層：黒褐色土層(Hue10YR2/2) 厚さ20cm。
- 3層：黒褐色土層(Hue10YR2/3) 厚さ8cm。
- 4層：にぶい黄褐色土層(Hue10YR4/3) 厚さ20cm。ほぼ調査区全体に堆積する。
- 5層：褐色土層(Hue10YR4/4) 厚さ8cm。部分的にしか堆積していない。ブロック状のニガが混じる。

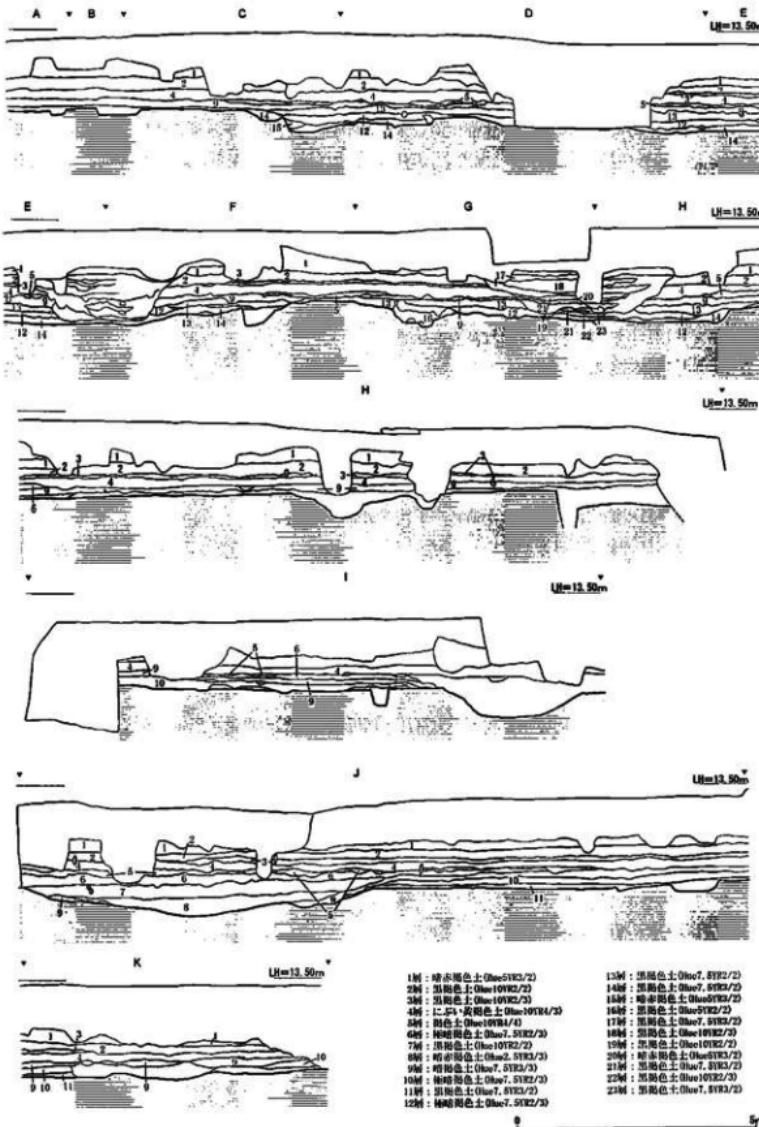


図4 0402調査地点調査区土層断面実測図 (1/100)

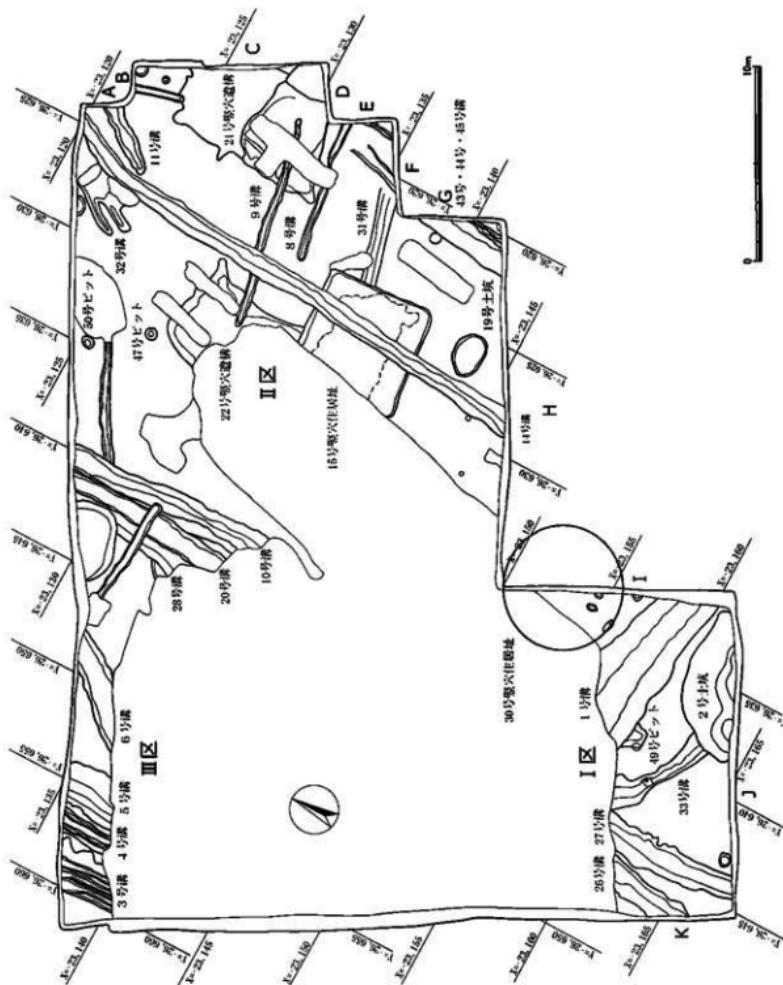


図5 0402調査地点造構配置図 (1/250)

- 6層：棕暗褐色土層 (Hue7.5YR2/3) 厚さ15cm。きわめて黒色が強い。遺物取り上げの1層。北側にはブロック状に一部にしか堆積していない。旧來の古代遺物包含層である。
- 9層：暗褐色土層 (Hue7.5YR3/3) 厚さ10~20cm。肉眼では赤色を呈する。遺物取り上げの2層。ほぼ調査区全域に分布している。この下の層がその上部にマンガン集積層を形成する(10層・13層)。古代の遺物が含まれる。

- 10層：極暗褐色土層（Hue7.5YR2/3）厚さ10cm。調査区の南側を中心に堆積する。マンガンはブロック状に層中に含まれる。縄文時代の遺物が含まれる。
- 11層：黒褐色土層（Hue7.5YR3/2）本来の地山層。
- 12層：極暗褐色土層（Hue7.5YR2/3）厚さ10cm。調査区の北側を中心に堆積する。南側の10層相当層。
- 13層：黒褐色土層（Hue7.5YR2/2）厚さ15cm。調査区の北側を中心に堆積する。南側の11層相当層で、本来の地山層。
- 14層：黒褐色土（Hue7.5YR3/2）調査区の北側を中心に堆積する。13層よりやや明るい色調である。南側の11層相当層で、本来の地山層。

以上の土層は、調査区南側を中心に堆積する6層とほぼ全域に堆積する9層が古代遺物を含む層に、調査区南側を中心に堆積する10層および11層と北側を中心に堆積する12～14層が縄文時代の遺物を包含する層としてまとめることができる。2層は13世紀末以降の溝（河川流路）と考えられる43・44・45号溝に切られており、5～2層は古代以降中世以前の堆積物であると考えられる。

（3）検出遺構（図5）

本調査区では、近代・近世溝1条、中世溝1条、古代の溝14条と竪穴住居址1基、古墳時代末の溝1条と竪穴住居址1基、古墳時代前期の竪穴遺構2基、縄文時代後期末の竪穴住居址1基を検出した。

<溝（図5・6）

1号溝（図6・7）

調査区の南側の一画で検出した東西方向に走る幅3m、深さ80cmの断面形逆台形を呈する溝である。ほぼ底面近くからウシのような大型の動物の四肢骨と思われる破片と近世陶磁器の小片など（図12：1～3）が出土した。0314調査地点Ⅱ区の5号溝と9511調査地点の10号溝に繋がる。

3～5号溝（図6・7）

調査区の北西角で検出したほぼ南北方向に平行して走る溝である。南側は擾乱によって破壊されている。3号溝は幅20～30cm、深さ10～30cmの断面U字形の3本の溝が平行しており、4号・5号溝は浅い立ち上がりの鈍い1.5～2mの溝である。いずれも基底部は部分的ではあるがマンガンの集積により固い。時期を示すような目立った遺物はないが、北側に位置する9801調査地点の30～33号・40号溝と方向的に一致し、構造もよく似ていることから一連の溝と思われ、古代のものである可能性が高い。

6号溝（図5・7）

調査区西壁から南西方向へ延びる溝で、南側は擾乱によって破壊されている。幅1.4m、深さ40cmの断面形逆台形を呈する。0314調査地点Ⅱ区7号溝と9511調査地点の19号溝につながるものと思われる。

8・9号溝（図5・7）

調査区北東部から東西方向にほぼ平行して延びる溝である。幅40cm深さ15～20cmあまりの断面形逆台形を呈する溝である。溝間は約25mあまりであるが、8号溝は途中で途絶えている。

10・20号溝（図5・7）

調査区西壁から南角にかけて南北方向に走る2本の溝である。10号溝は幅1mあまり、深さは50cm断面形逆台形を呈する溝である。20号溝は、幅は10号溝とほぼ同じであるが、深さが15cmほどとなり浅い。溝の方向からみて、10号溝はI区の27号溝に繋がり、20号溝はI区の26号溝へ繋がる。

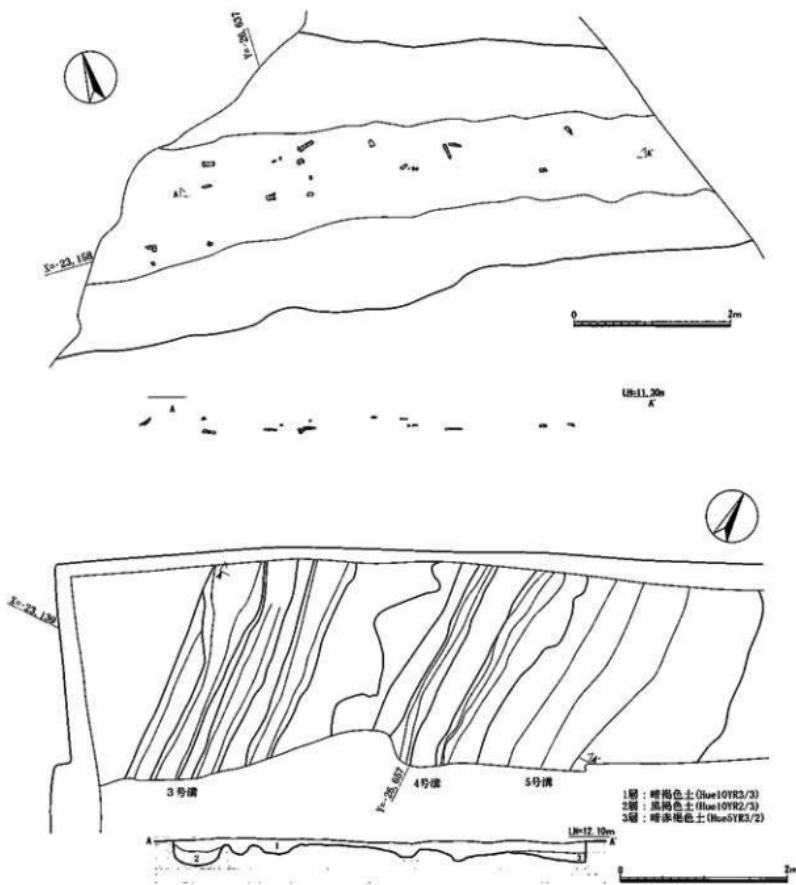


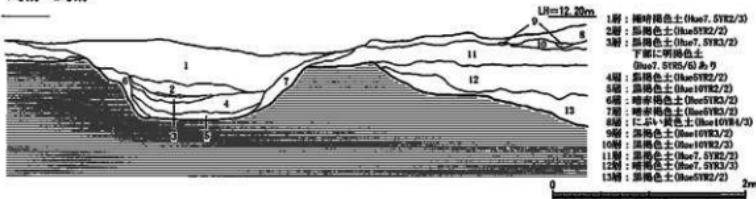
図6 1号溝・3号・4号・5号溝実測図 (3/200・1/60)

る可能性が高い。これらの溝は調査区北側では一部重なるが、南角ではやや離れており、調査区外へ行くにつれ溝間の距離は広くなるものと思われる。20号溝からは土師器の變形土器や壺の他、須恵器の付蓋、壺身、長頸壺、大形壺の破片類(図12:15-20)が、10号溝の延長部と思われる27号溝からは土師器の瓶把手、須恵器の横瓶、高台付壺、高壺(図12:25-28)が出土している。

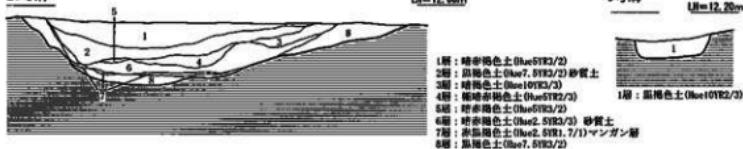
11号溝(図5・7)

調査区北角で検出した溝状の遺構で、南側へは延びない。幅90cm、深さ20cmで、断面形はほぼレンズ状を呈する。

1号溝・2号溝



28号溝



9号溝



10号溝



11号溝



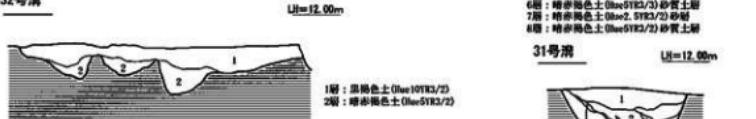
6号溝



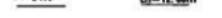
14号溝



32号溝



31号溝



33号溝



3号溝



14号溝（図5・7）

調査区の北角から南へ延びる、断面形逆台形の溝である。幅1m、深さ50cmである。大部分直線的であるが、北側部分はやや東方向へ湾曲している。比較的大きな破片として土師器壺片と須恵器小壺の破片（図12：6・7）が出土した。

28号溝（図5・7）

調査区の西壁から南北方向に走る溝であり、10号・20号溝の下に重なるように位置する。幅2m、深さ30cmあまりである。断面形はレンズ状を呈する。出土遺物としては、古代の土師器の壺、瓶もしくは竈の把手、高坏（図12：29-32）などが出土している。

31号溝（図5・7）

調査区東側南部に東西方向に走る断面形U字形の溝である。幅70cm、深さ35cmである。西側は15号堅穴住居址に切られしており、その先は攪乱で破壊されている。走向と断面形の特徴から、9511調査地点の55号溝に繋がるものと思われる。中間部は0314調査地点Ⅱ区で検出した6号溝に相当する。総延長で90m以上あったものと思われる。15号堅穴住居址との切り合いから6世紀代まで遡る可能性もある。

32号溝（図5・7）

調査区北角に八手状に延びる溝状の遺構である。断面形は整形でなく、凸凹しており、自然の水力による削平の可能性もある。

33号溝（図5・7）

調査区南側中央部を蛇行しながら北西から南東に延びる幅60cm～1mの溝である。幅も一定せず、水流れによる凸凹の窪みが認められる。その一つが49号ピットである。2号土坑と接合した須恵器壺（図12：14）があり、一連の水田などの水利に係る遺構である可能性もある。2号溝からは土師器の高坏片（図12：4）が、33号溝からは須恵器類（図12：11-13）が出土した。また、49号ピットからは図12：23の須恵器の壺が出土した。

43・44・45号溝（図5）

調査区の南東壁にかかるように南北に走る断面逆台形の溝であり、堆積土中には粗い砂層が土層と互層になっている。底面付近で検出しており、3つの溝と判断したが、底面形状が凸凹であるためこのように見えている可能性がある。調査区の土層断面図（図5上2段目E-F間、G-H間）に堆積状況が確認できる。小片で図示していないが、鎌葉連弁の青磁碗の口縁部片が出土しており、13世紀末以降の溝であると思われる。

＜堅穴住居址＞

15号堅穴住居址（図8）

調査区東側に位置する6×5.5mの長方形プランをもつ堅穴住居址である。竈は西壁に設けられていた可能性が高いが、この部分は攪乱によって破壊されている。攪乱で破壊された部分の中央部に竈の資材と思われる砂岩礫が8個ほど散乱しており、これを裏付けている。中央部に硬化面が認められ、それらを除去すると、直径40～50cm、深さ40cmほどの柱穴が4個四角に配置されていることが確認できた。その土層断面にみる柱痕跡の直径は15～20cmほどである。住居の大きさや構造、出土遺物（図12：8-10）などから7世紀初頭のものと思われる。

30号堅穴住居址（図9）

調査区南端の一角で検出した堅穴住居址と思われる縄文時代後期末の遺物の集中区である。直径4ほどの範囲に、縄文土器片および摩石や凹み石、打製石斧の破片などが集中して出土した。明確な住

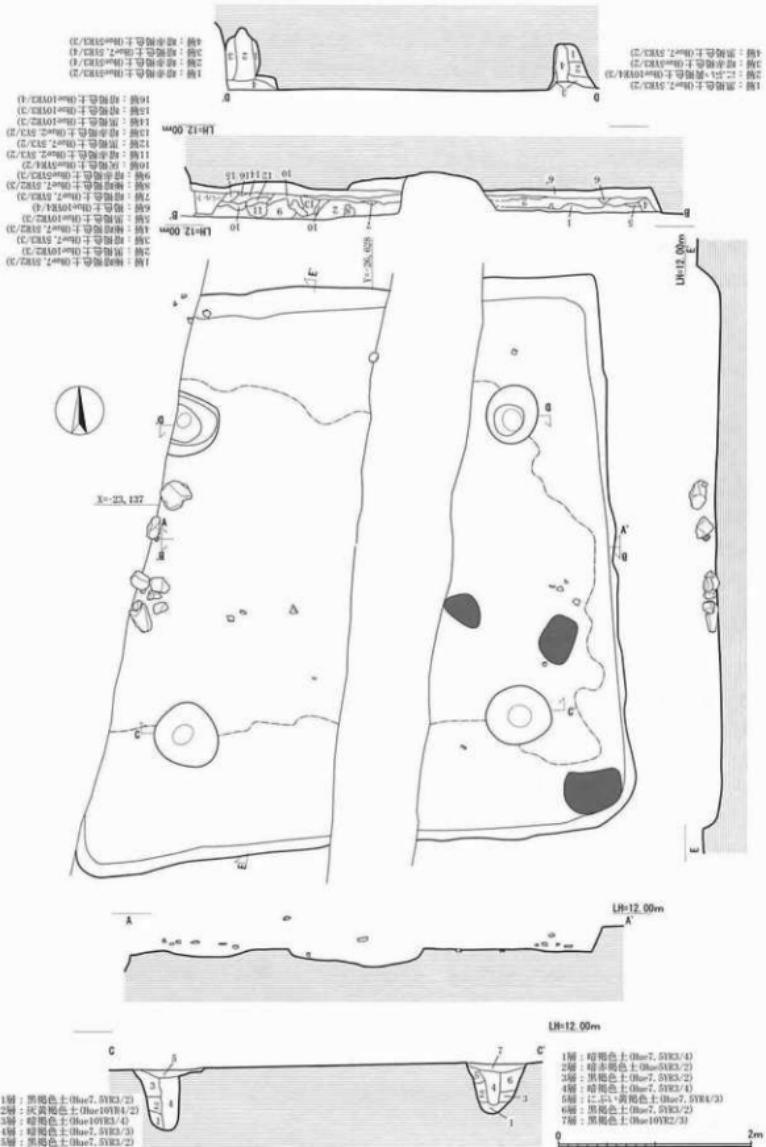


图8 15号竖穴住居址实测图 (1/50)

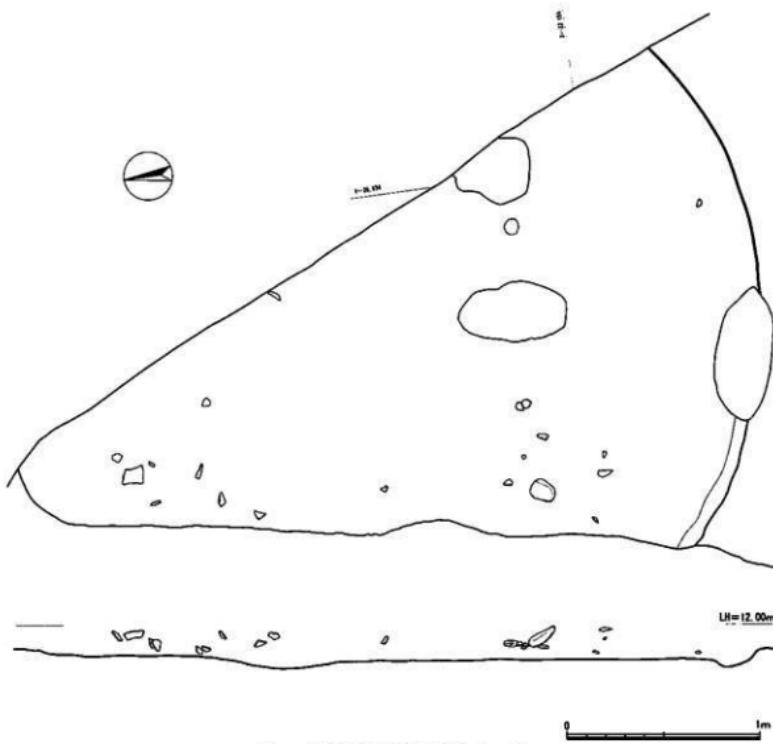


図9 30号竪穴住居址実測図 (1/50)

居の壁の立ち上がりや炉址などは把握できなかったが、本来は竪穴住居址であった可能性が高い。住居址と認識した時点でこの遺構に伴うと想定した遺物として、図12:40-42、55があるが、43番の打製石斧もこの範囲に入るものの、本来は住居址に伴う遺物であると考えられる。

<竪穴遺構>

21号竪穴遺構 (図10)

調査区の北東部で検出した $5 \times 4.5\text{m}$ の台形状を呈する竪穴遺構である。深さ30cmあまりで、底面は平坦であるが、壁部に相当する立ち上がりは緩やかである。南西部に幅30cmほどの窓状の突出した張り出し部が認められる。時期を示す遺物として、遺構の東側より検出した土師器壺 (図12:22) があり、古代の土師器壺である。ただし、出土した大きな土器の破片はこれのみであり、西側にある22号竪穴とよく似た構造をもつことから、古墳時代前期の遺構としている。

22号竪穴遺構 (図11)

21号建物址の西側5mのところにある同様の張り出しをもつ竪穴である。南半分を擾乱によって破壊されている。やや不正形であるが、ほぼ隅丸の正方形のプランをもつ。北側角に幅30~40cmの窓状の突出部をもつ。深さは30~40cmであるが、断面形を見ると緩やかな立ち上がりをもつ皿状であ

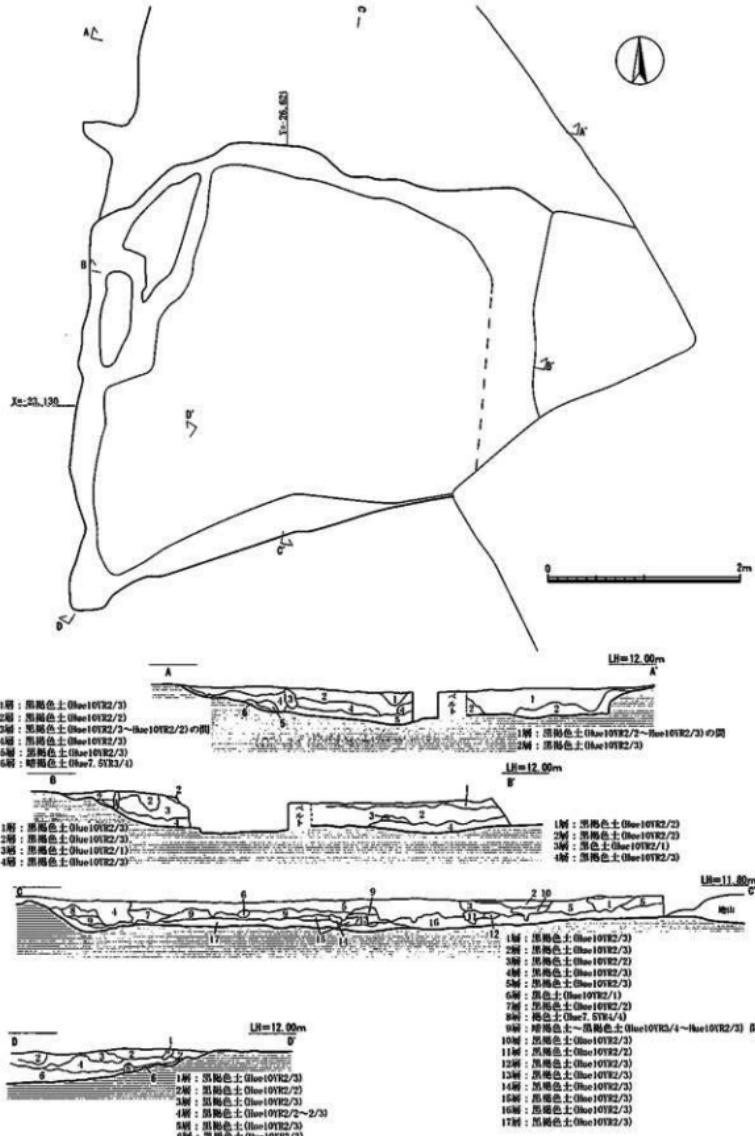


図10 21号竖穴造構実測図 (1/50)

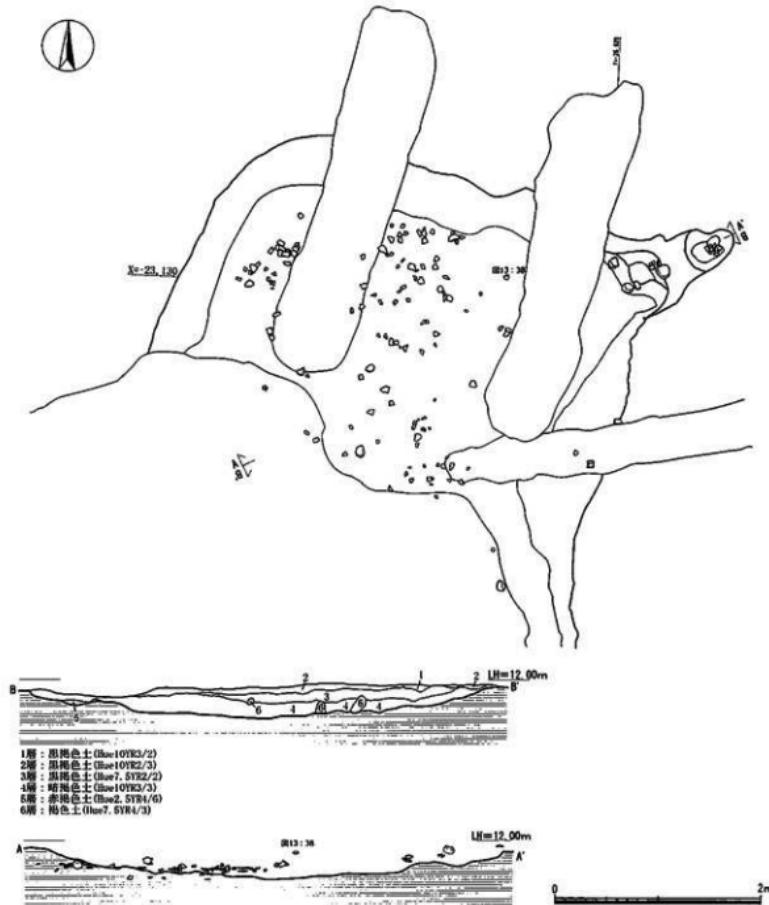


図11 22号竪穴造構実測図 (1/50)

る。内部から古墳時代前期の土師器の各種土器片が出土した（図12：33-37）。図12：38の須恵器壺も造構の平面的な範囲の中に含まれているが、出土位置が他の土器類に比べて高く、本来この造構に伴うものではないと考えられる。

これらの竪穴造構は、張り出し部分を竈と考え、22号のような多数の土器が含まれることから、住居の可能性も想定したが、この部分を水口と考えれば溜池状の造構とも考えられる。ただし、堆積状況などもそのような特徴は認められず、決め手を欠いており、正確な機能は不明である。

(4) 出土遺物 (図12・13)

<1号溝出土遺物>

図12：1・2は近世陶磁器の碗の破片である。1は楕円のかかる陶器碗、2は青磁碗である。3は土師器の鉢形土器の屈曲部の破片である。

<2号溝・33号溝・49号ピット出土遺物>

図12：4は土師器の高坏の脚部上半の破片である。11と12は須恵器の高台付坏の底部の破片である。13は上部が椀型を呈する高坏の坏底部の破片である。14は33号溝出土品と2号土坑出土品が接合したもので、算盤形の脇部をもつ須恵器の壺形土器の脇部片である。片部には櫛歯の連続刺突文様がある。

<20号溝出土遺物>

図12：15は口縁部に反しがわずかに残る須恵器の坏蓋の破片である。16も同じく坏蓋の破片であり、低い宝珠形のつまみを残す。17は土師器の鉢で、肥厚し外反する口縁部が特徴的であり、内面削りを施す。18は須恵器の坏の底部破片である。底部外面に×字のヘラ記号が認められる。19は須恵器の大甕の底部付近の破片である。外面に平行叩き、内面に青海波状文の叩き痕が認められる。20は須恵器の長頸壺と思われる脇部の破片である。21は土師器の坏の口縁部片である。内面に磨きの痕跡がある。23は33号溝の中にある49号ピットから出土した須恵器の坏である。口縁部をおよそ2/3ほど欠いている。

<47号ピット出土遺物>

図12：24は肩部に張り出し部をもつ須恵器壺の破片である。包含層から出土したものと接合して体部の1/4ほどに復元できた。

<27号溝出土遺物>

図13：25は土師器の瓶の把手である。26は須恵器の横壺の脇部片、27は須恵器の高台付坏の底部片、28は須恵器高坏の坏部片である。

<28号溝出土遺物>

図13：29は瓶土師器の壺形土器の頭部の破片である。30と32は土師器の瓶または移動式壺の把手である。31は土師器高坏の脚部である。赤色顔料を塗布している。

<22号竪穴造構出土遺物>

図13：33～37は古式土師器の壺形土器である。33は二重口縁壺形土器、34と36は壺形土器、35は高坏、37は小型丸底壺の破片である。いずれも4世紀代に収まるものと思われる。38は6世紀末～7世紀初の時期に比定される須恵器の坏身であり、出土状況から本造構に伴うものではない。39は円碟を利用した叩き石である。側面を中心に敲打痕が認められる。

<30号竪穴住居址出土遺物>

図13：40は繩文後期末の古窓式土器の深鉢の口縁部片である。41もほぼ同じ時期の深鉢形土器の脇部片と思われる。42は平坦な面の両面に凹みをもつ凹石である。周囲の側面は敲打痕が認められ、平坦面はよく擦れています。55はヘラ状の打製石斧である。素材は頁岩と思われる。43は安山岩製の打製石斧の頭部の破片である。

<その他の遺物>

図13：44～46は包含層および攪乱層から出土した陶磁器である。44は陶器碗、45も楕円のかかった土瓶の把手の付け根部分の破片である。46は青磁碗、47は白磁の皿の口縁部片である。48は須恵器の高台付坏の底部片である。49は須恵器の蓋である。50は繩文時代後期前葉の鐘崎式の深鉢形土器の脇部片と思われる。51・52は土製の網錘である。53は石製の紡錘車の破片である。54は青銅製の金環の

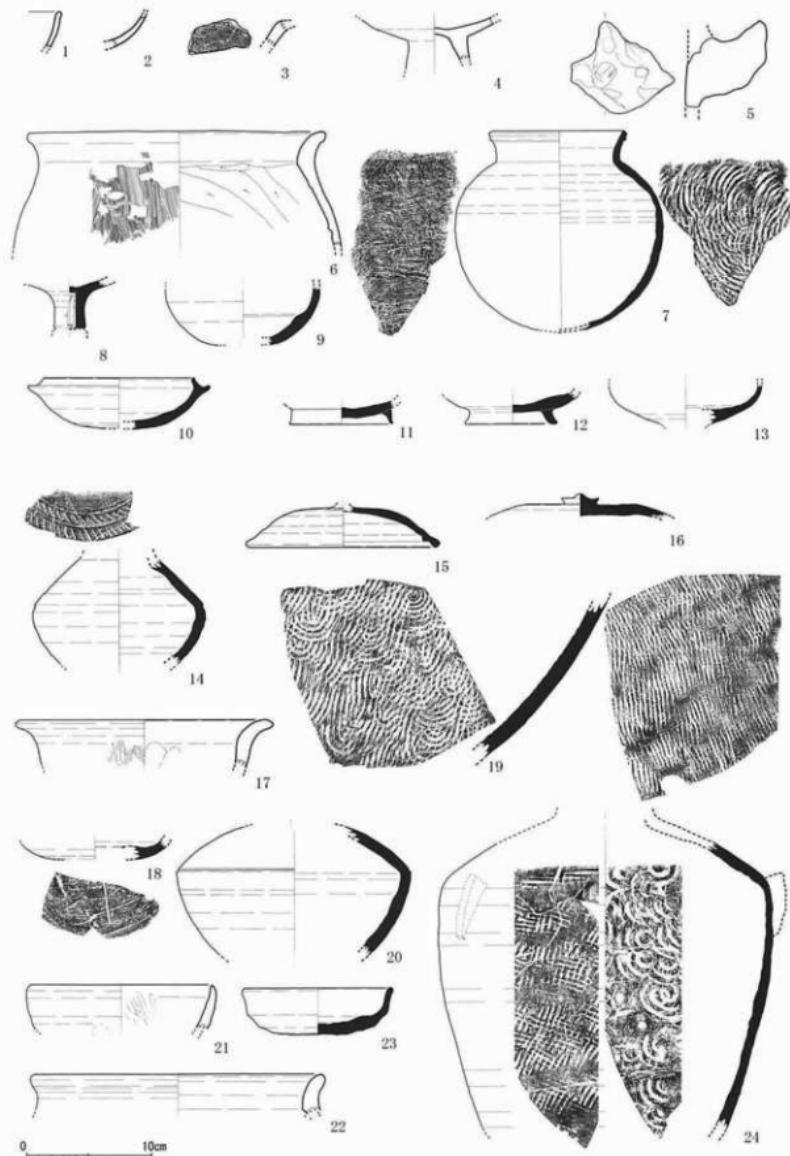


图12 0402调查地点出土遗物实测图1 (1/4)

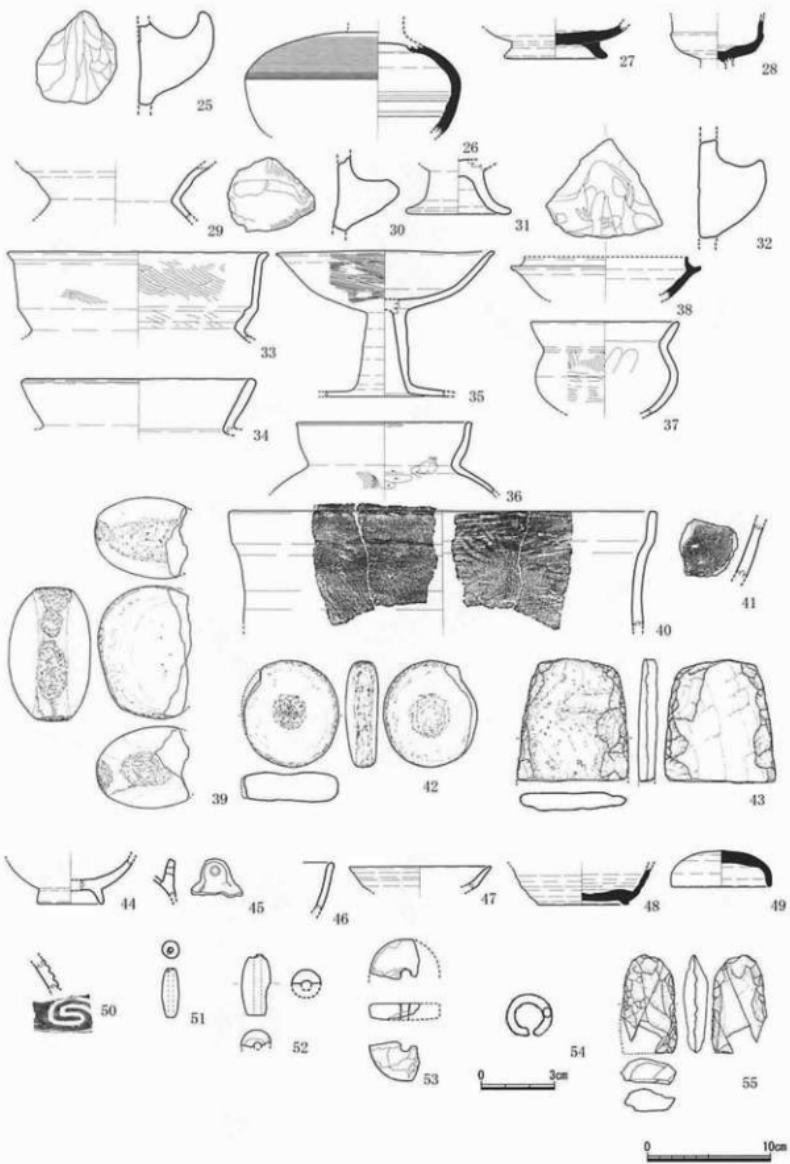


図13 0402調査地点出土遺物実測図2 (1/4・1/2)

表2 0402調査地点出土遺物一覧表

回	番号	遺物	種類(器種)	法縦(cm)	残存部	特徴	色調	出土遺構	備考	
12	1	陶器	碗	11.5	口縁部片	内: 茶 外: 茶	内: Hue 5Y5/2 外: Hue 5YR6/4	I号溝2層上		
	2	青磁	碗	11.5	破片	内: 茶 外: 茶	内: 鹽灰色 外: Hue N7/0	I号溝1層		
	3	繩文土器	深鉢型土器	11.5	破片	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 25Y7/3 外: Hue 5YR6/8	I区 I号溝2層	外面に丹塗り、 内面に瓦紋	
	4	土師器	高杯	1/5		内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	内: Hue 7.5YR7/8 外: Hue 7.5YR7/8	2号土坑 P-1	赤色化粧土	
	5	土師器	瓶	11.5	把手のみ	内: ナデ 外: ナデ、開口、ハケ口	内: Hue 5Y R7/6 外: Hue 5Y R6/6	III区10号溝1層		
	6	土師器	甕	11.5	23.6	1/8	内: ナデ、ヘラ削り 外: ナデ、ハケ口	内: Hue 5YR6/6 外: Hue 5YR6/6	14号溝 P-1	内面にコゲあり
	7	須恵器	盃?	11.5	11.5	1/5	内: 横ナデ、タクキ 外: 横ナデ、タクキ	内: Hue 25Y2/1 外: Hue 25Y2/1	14号溝 P-2	
	8	須恵器	高杯	11.5	破片	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、削り、	内: Hue 10Y8/1 外: Hue 10Y8/1	15号竪穴住居址 P-12	通かしあり	
	9	須恵器	盃?	11.5	破片	内: 回転ナデ、ヘラ削り 外: 回転ナデ	内: Hue 10Y6/1 外: Hue 10Y4/1	15号竪穴住居址 P-4、P-5		
	10	須恵器	杯	11.5	14.6	1/8	内: ナデ、削り 外: ナデ、削り	内: Hue 5Y6/1 外: Hue 10Y6/1	15号竪穴住居址 P-1	
	11	須恵器	碗	11.5	8.4	1/4	内: 回転ナデ、削り 外: 回転ナデ、削り	内: Hue 25Y6/2 外: Hue 7.5Y5/	33号溝 P-2	
	12	須恵器	碗	11.5	7.2	1/6	内: 回転ナデ、削り 外: 回転ナデ、削り	内: Hue 7.5Y5/1 外: Hue 7.5Y4/1	33号溝 P-6	
	13	須恵器	高杯?	11.5	破部片		内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、削り、	内: Hue 10Y4/1 外: Hue 10Y4/1	33号溝	
	14	須恵器	盃	11.5	大径 14.0	1/8	内: 横ナデ 外: 横ナデ	内: Hue 7.5Y7/1 外: Hue 5P B7/1	33号溝、2号土坑	外面に墨目文あり
	15	須恵器	盃	11.5	15.8	1/3	内: 横ナデ 外: 横ナデ	内: Hue 5Y8/1 外: Hue 5Y8/1	20号溝 P-1	
	16	須恵器	盃	11.5	成形器	1/3	内: ナデ 外: 横ナデ	内: Hue 5Y5/1 外: Hue N4/0	20号溝 P-4	
	17	土師器	鉢	11.5	20.8	口縁部片	内: ナデ、削り 外: 横ナデ、ハケ口	内: Hue 5YR5/6 外: Hue 5YR5/6	20号溝 P-3	
	18	須恵器	杯	11.5	底部片		内: 横ナデ 外: 横ナデ	内: Hue 5Y5/2 外: Hue 5Y6/2	20号溝	底部にカキ目あり
	19	須恵器	甕	11.5	破部片		内: タクキ 外: ナデ、タクキ	内: Hue 25Y5/1 外: Hue 10YRA/2	20号溝 P-6	
	20	須恵器	盃	11.5	19	副部1/6	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 25Y8/2 外: Hue 25Y7/2	20号溝、20号 溝 P-2	
	21	土師器	鉢	11.5	14.7	口縁部片	内: ナデ、ヘラ削り	内: Hue 5YR6/4 外: Hue 5YR6/4	20号溝	
	22	土師器	甕	11.5	23.8	口縁部片	内: 横ナデ 外: 横ナデ	内: Hue 5YR6/6 外: Hue 5YR6/6	21号竪穴遺構、21 号東	
	23	須恵器	杯	11.5	12.2	3/5	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 25G Y4/1 外: Hue 10Y6/4	49号ピット P-5、 2号土坑Ⅱ層	
	24	須恵器	耳穿	11.5	最大径 27.4	1/4	内: 同心円タクキ 外: 格子格子	内: Hue 5Y5/1 外: Hue 25Y6/3	47号ピット、II区 I層、II区M2層上 部、II区上層	
13	25	土師器	瓶	11.5	把手のみ		内: ナデ、削り 外: ナデ、削り	内: Hue 5YR7/4 外: Hue 5YR8/4	27号溝 P-1	
	26	須恵器	半瓶	11.5	大径 17.6	1/3	内: ナデ、削り 外: ナデ、ハケ口	内: Hue 25Y7/2 外: Hue 5Y7/1	27号溝、I区2層	
	27	須恵器	碗	11.5	8.4	1/3	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、削り	内: Hue 5Y7/2 外: Hue 5Y7/1	27号溝	
	28	須恵器	高杯	11.5	成形器	1/5	内: ナデ 外: ナデ、削り	内: Hue 10Y4/1 外: Hue 10Y3/1	27号溝	
	29	土師器	甕	11.5	8.8	肩部片	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ	内: Hue 10YR6/4 外: Hue 10YR7/4	28号溝 P-7	
	30	土師器	瓶	11.5	8.6	把手のみ	内: ナデ 外: ナデ、削り、ハケ口	内: Hue 25Y R7/6 外: Hue 25Y R6/6	28号溝 P-4	
	31	土師器	高杯	11.5	8.6	1/3	内: ナデ 外: ナデ	内: Hue 7.5Y R7/4 外: Hue 7.5Y R7/4	M28号溝 P-1	一部に赤色化粧 土が残る

図	番号	遺物	種類(特徴)	寸法(cm)	残存状	断面	色調	出土位置	備考	
13	32	土師器	瓶	口径 底径 高さ	9.5 7.9 10.5	把手のみ	内:ナデ、削り 外:ナデ、削り	内: Hue 75Y R4/3 外: Hue 75Y R4/2	M28号溝	
	33	土師器	二重口鉢型	口径 底径 高さ	21 16.5 10.5	口縁部1/5	内:ナデ、削り、ハケ目 外:ナデ、削り、ハケ目	内: Hue 75YR7/4 外: Hue 75YR6/4	22号竪穴道構 P-15, P-17	
	34	土師器	壺	口径 底径 高さ	18.8 14.5 10.5	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ	内: Hue 75Y R7/4 外: Hue 75Y R8/4	22号竪穴道構 P-12, P-22, P-29 外側面にススあり	
	35	土師器	高壺	口径 底径 高さ	17.95 11.9 11.9	3/4	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、ハケ目	内: Hue 25YR6/6 外: Hue 75YR6/4	22号竪穴道構 P-1, P-5, P-6, P-7, P-9, 北中央	
	36	土師器	壺	口径 底径 高さ	14.2 11.5 11.5	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、ハケ目	内: Hue 5YR7/4 外: Hue 75YR2/1	22号竪穴道構 P-25 外側面にススあり		
	37	土師器	小壺	口径 底径 高さ	12 8.5 8.5	1/3	内:ナデ、削り 外:ナデ、ハケ目	内: Hue 25YR4/6 外: Hue 25YR4/6	22号竪穴道構 P-2, P-3 外側面にコゲあり	
	38	須恵器	壺	口径 底径 高さ	13.2 10.5 10.5	内: 回転ナデ、削り 外: 回転ナデ	内: Hue 5Y6/1 外: Hue 516/1	22号竪穴道構 P-4		
	39	石器	敲石	長さ 幅 厚さ	11.92 6.66 6.63		内: Hue 外: Hue	22号竪穴道構 S-2	重量755g、一部 欠損、安山岩?	
	40	純文土器	深鉢型土器	口径 底径 高さ	35 27.55 11.5	口縁部片	内:ナデ 外:ナデ、磨き	内: Hue 25Y7/3 外: Hue 25Y6/3	30号竪穴住居址 P-4	
	41	純文土器	深鉢型土器	口径 底径 高さ	35 27.55 11.5	破片	内:ナデ、磨き 外:ナデ、磨き	内: Hue 25Y6/2 外: Hue 75YR6/4	30号竪穴住居址 P-13 内側に圧痕あり	
	42	石器	凹岩	長さ 幅 厚さ	8.67 7.65 1.11	ほぼ完形	内: Hue 外: Hue	30号竪穴住居址 S-I	重量254g、砂岩	
	43	石製品	打製石斧	从S 9.97 9.05 厚さ 1.45			内: Hue 75YR7/4 外: Hue 10YR8/4	I区 S-1	重量228g、安山 岩、刃部無欠損	
	44	陶器	碗	口径 底径 高さ	54 45 25	1/5	内: 軸 外: 軸	内: Hue 25Y8/4 外: Hue 25Y6/4	I区 混乱	
	45	陶器	土瓶	口径 底径 高さ	54 45 25	耳部のみ	内: 軸 外: 軸	内: Hue 10Y5/1 外: Hue 10Y4/1	II区1層	
	46	青磁	碗	口径 底径 高さ	54 45 25	口縁部片	内: 軸 外: 軸	内: Hue 75Y5/2 外: Hue 75Y5/2	I区 混乱	
	47	白磁	皿	口径 底径 高さ	11.6 10.5 2.5	口縁部片	内: 軸 外: 軸	内: Hue 25G Y8/1 外: Hue 5Y8/1	I区 混乱	
	48	須恵器	碗	口径 底径 高さ	7.45 7.45 2.5	底部片	内: 回転ナデ 外: 回転ナデ、ヘラ削り	内: Hue 25G Y6/1 外: Hue 10Y6/1	III区1089I	
	49	須恵器	蓋	口径 底径 高さ	8.2 7.3 2.3	1/2	内:ナデ、削り 外:ナデ、削り	内: Hue 5Y6/1 外: Hue 5Y6/1	I区2層	外側一部に自然 軸あり
	50	純文土器	深鉢型土器?	口径 底径 高さ	8.2 7.3 2.3	肩部破片	内:ナデ 外:磨き	内: Hue 25Y6/4 外: Hue 25Y5/4	II区包含層	外側に文様(四 輪文)あり
	51	土製品	土鍬	長さ 幅 厚さ	4.0 1.35 1.35	完品	内: 外:ナデ	内: Hue 外: Hue 5YR5/6	II区	
	52	土製品	土鍬	長さ 幅 厚さ	4.95 2.35 2.35	1/2	内: 外:ナデ	内: Hue 10Y R8/3 外: Hue 75Y R6/6	I区1層	
	53	須恵器	紡錘車	長さ 幅 厚さ	4.1 3.25 1.3	1/4		内: Hue 外: Hue 75Y8/1	II区1層	
	54	青銅製品	耳環	長さ 幅 厚さ	1.71 1.9 0.4			内: Hue 外: Hue	II区包含層	重量2g
	55	石製品	石斧	長さ 幅 厚さ	8.11 4.5 1.84			内: Hue 外: Hue	30号竪穴住居址 S-4, S-5, S-6	重量72g、司馬腰鏡 ヘラ状石斧、貝殻
14	56	石器	石核	長さ 幅 厚さ	2.88 3.26 2.25		内: Hue 外: Hue	II区1層	重量18g、黒曜石	
	57	石器	剥片	長さ 幅 厚さ	2.74 2.15 0.77		内: Hue 外: Hue	M12下層	重量3g、黒曜石	
	58	石器	剥片	長さ 幅 厚さ	2.29 2.06 0.59		内: Hue 外: Hue	出土位置不明	重量2g、黒曜石	
	59	石器	剥片	長さ 幅 厚さ	2.49 2.06 0.55		内: Hue 外: Hue	I区マンガン層下	重量3g、黒曜石	
	60	石器	打製石核	長さ 幅 厚さ	1.93 1.64 0.35		内: Hue 外: Hue	包含層	重量1g、黒曜石、 大輪片脚を欠く	

可能性が高い。図14:56-60は佐賀県伊万里市腰岳産と思われる漆黒色の黒曜石を用いた石核、剥片、石礫である。これらはいずれも各区の包含層から検出した。

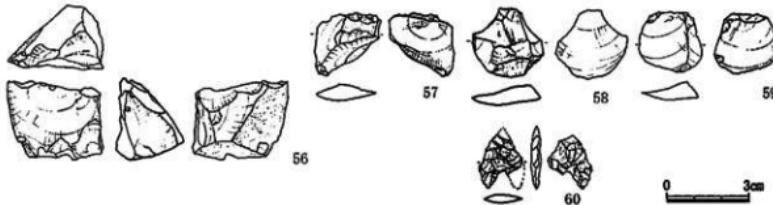


図14 0402調査地点出土遺物実測図3 (1/2)

(5)まとめ

今回の発掘調査では、ほぼ調査予定地の約半分が既存建物のために破壊されていたが、それ以外の部分では、予想どおり地表下1.3~1.4m以下の部分に造構が良好に残っていることが判明した。溝や堀などを中心とした造構群ではあったが、古墳時代末には住居が存在し、9世紀後半~10世紀以後に水田化する様相が把握できた。本調査区地点は現在も白川から流れ込む小河川の近くに位置しており、水の影響を大きく受ける土地柄である。この一帯で集落が維持できなくなった理由の一つとして温暖化による洪水などの水害の増加も考慮してみる必要があろう。

写 真 図 版

図版1 0314調査地点



写真1 I区全景（西より）



写真2 II区全景（南より）



写真3 II区5号溝（東より）



写真4 II区7号溝（西より）



写真5 II区調査風景（南より）

図版2 0402調査地点



写真6 0402調査地点の鳥瞰写真（南より）



写真7 0402調査地点の遺構検出状況（上空より）

図版3 0402調査地点



写真8 I区全景（北西より）



写真9 II区全景（北西より）



写真10 III区全景（西より）



写真11 II・III区全景（西より）



写真12 I区全景（南西より）



写真13 I区南壁（北より）



写真14 I区東壁（西より）



写真15 1号溝・2号土坑（南西より）

図版4 0402調査地点



写真16 1号溝(東より)



写真17 1号溝土層断面(東より)



写真18 2号土坑土層断面(東より)



写真19 43・44・45号溝(南より)



写真20 43・44・45号溝(北西より)



写真21 6号溝(南西より)



写真22 6号溝土層断面(南西より)



写真23 10号溝土層断面(北より)

図版5 0402調査地点



写真24 10号・20号溝（北より）



写真25 10号溝土器皿出土状況（南より）



写真26 14号溝土層断面（北より）



写真27 14号溝遺物出土状況1（西より）



写真28 14号溝遺物出土状況2（東より）



写真29 32号溝土層断面（南より）



写真30 33号溝土層断面（北より）



写真31 33号溝内ピット（49号）遺物出土状況（東より）

図版6 0402調査地点



写真32 21号竪穴遺構（西より）



写真33 22号竪穴遺構遺物出土状況（北西より）



写真34 22号竪穴遺構土層断面（北より）



写真35 22号竪穴遺構竪状構造（南西より）



写真36 15号竪穴住居址（東より）

図版7 0402調査地点



写真37 30号竪穴住居址遺物出土状況1（南より）



写真38 30号竪穴住居址遺物出土状況2（南より）

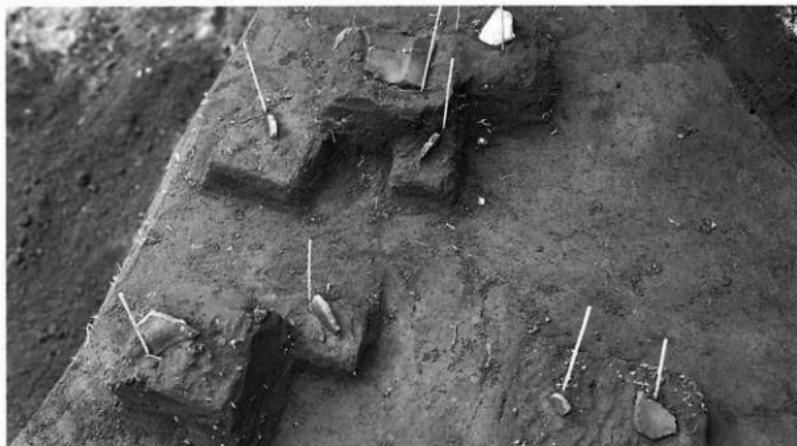
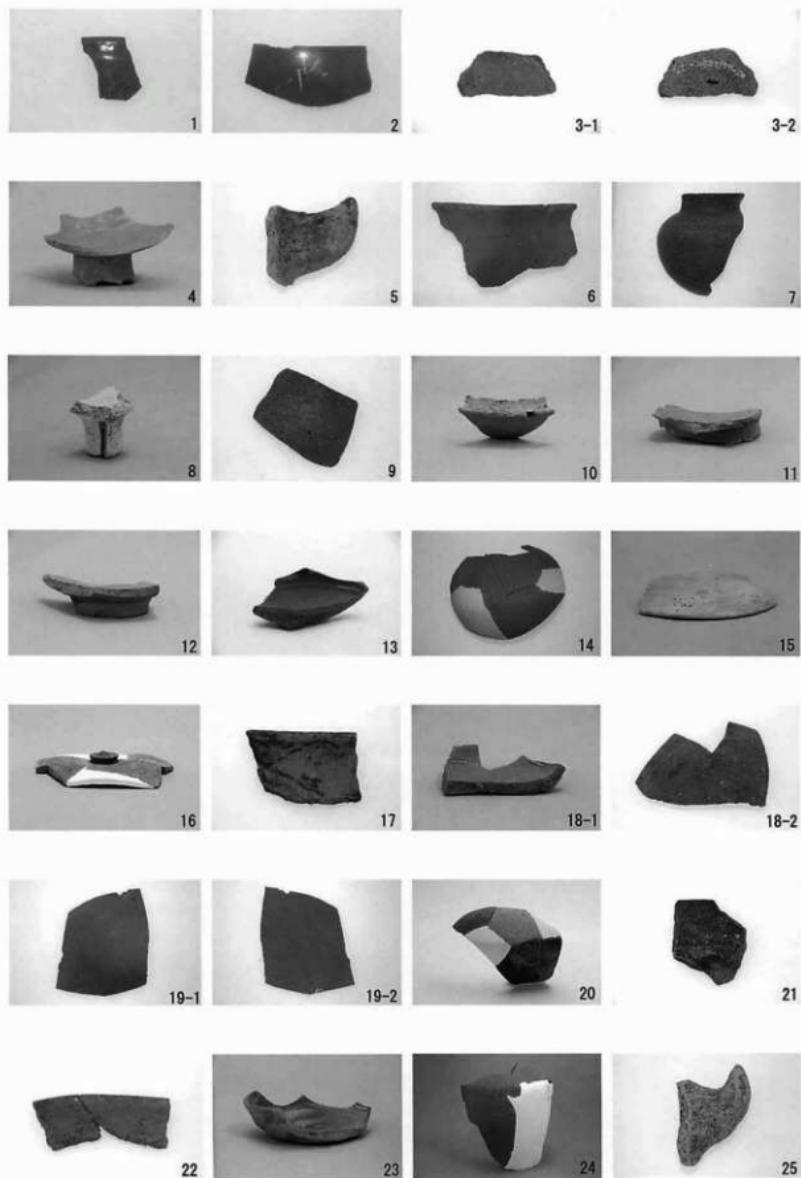


写真39 30号竪穴住居址遺物出土状況3（南より）

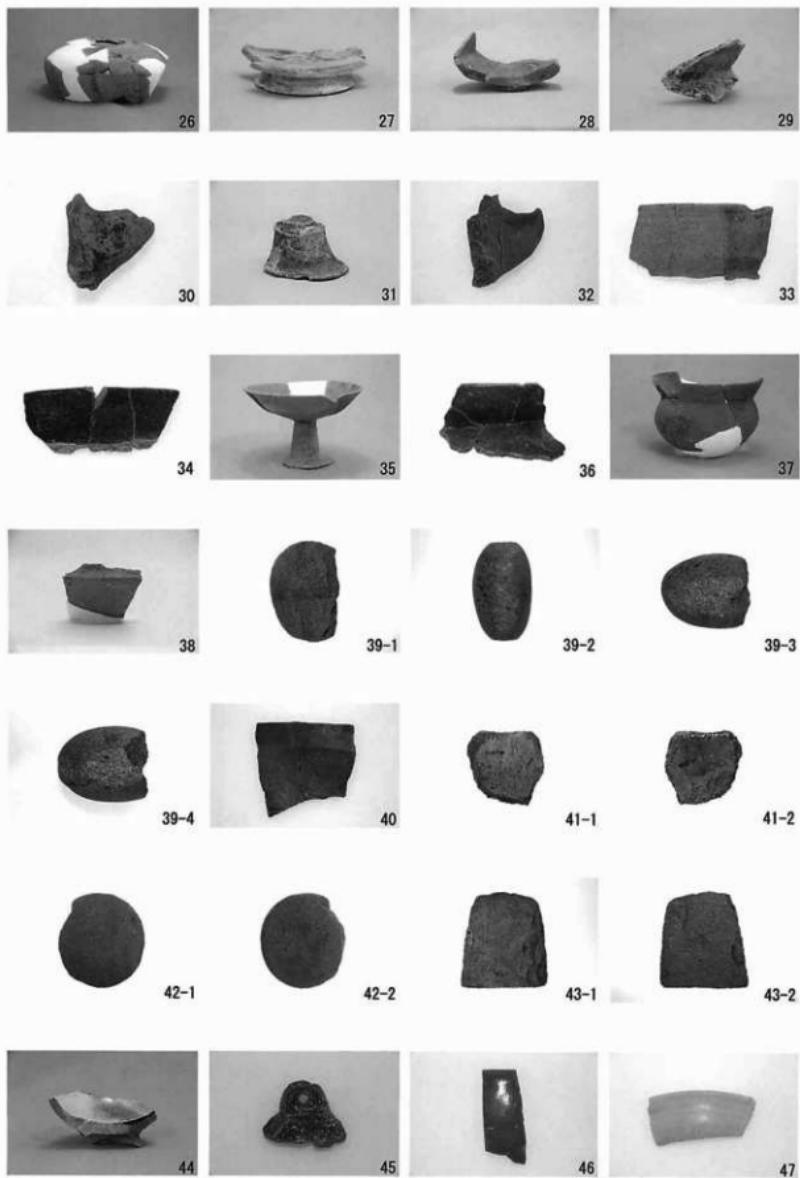


写真40 30号竪穴住居址（西より）

図版8 0402調査地点出土遺物1



図版9 0402調査地点出土遺物2



図版10 0402調査地点出土遺物3



48



49



50



51



52-1



52-2



53-1



53-2



54



55-1



55-2



56-1



56-2



57-1



57-2



58-1



58-2



59-1



59-2



60-1



60-2

報告書抄録

ふりがな	くまもとだいがくこうないいせきはくつちょうさはうこくII							
書名	熊本大学構内道路発掘調査報告Ⅱ							
副書名	本庄南地区発生医学研究センター施設整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	熊本大学埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ号	第2集							
編著者名	小畠弘己							
編集機関	熊本大学埋蔵文化財調査室							
所在地	〒860-8555 熊本県熊本市黒髪2-39-1 TEL. 096-342-3832 FAX. 096-342-3832							
施行年月日	2007年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
本庄道跡 (0314地点)	熊本県 熊本市 本庄	43 201	278	32° 47° 25°	130° 42° 50°	2004.01.23 ~ 2004.03.09	1000m ²	学校敷地内の開発事業に伴う
本庄道跡 (0402地点)	熊本県 熊本市 本庄	43 201	278	32° 47° 25°	130° 42° 50°	2004.04.13 ~ 2004.05.31	1241.75m ²	学校敷地内の開発事業に伴う

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
本庄道跡 (0314地点)	集落址	古代・近世	溝 6条 柱穴 3個	古代土師器・須恵器・中世末染付鏡	
本庄道跡 (0402地点)	集落址	古代・近世	溝17条・堅穴住居址 2基・堅穴状遺構2・ 土坑1・柱穴13個	近世陶磁器・中世青磁・古代土師器・ 須恵器・古墳時代須恵器・古式土師器・ 土鍍・石製結縄車・耳環?・縄文 後期土器・石器	

熊本大学埋蔵文化財調査報告書 第2集
熊本大学構内遺跡発掘調査報告Ⅱ
本荘南地区発生医学研究センター施設整備事業に伴う発掘調査報告書

平成19年3月20日 印刷

平成19年3月31日 発行

編集・発行 熊本大学埋蔵文化財調査室

〒860-8555 熊本市黒髪2丁目39-1

TEL 096(312)1283 FAX 096(312)1283

印 刷 シモダ印刷株式会社

